

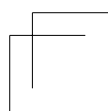
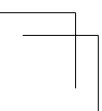
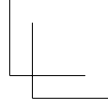
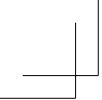
日本エンドオブライフケア学会 第3回学術集会

テーマ

地域とつなぐ！アドバンス・ケア・プランニング（ACP）
～介護から救急医療まで人生の物語を大切な人へ～

会 期：2019年9月14日（土）～9月15日（日）
会 場：名古屋大学医学部基礎研究棟
学術集会長：西川 満則

国立長寿医療研究センター 緩和ケア診療部
エンドオブライフケアチーム医師



INDEX

《 INFORMATION 》

学術集会長挨拶	p.4
大会概要	p.5
会場へのご案内	p.6
会場案内図	p.7
日程表	p.8
参加される方へのご案内	p.12

《 PROGRAM 》

9月14日（土）第1日目	p.18
9月15日（日）第2日目	p.32

《 ABSTRACT 》

委員会企画	p.46
学術集会長講演	p.51
特別講演	p.52
教育講演	p.55
シンポジウム	p.58
市民公開講座	p.70
ランチョンセミナー	p.71
交流集会	p.73
口演発表（O1-1～）	p.88
口演発表 事例・活動報告（AO1-1～）	p.105
示説1群（B1～）	p.122
示説2群（B2～）	p.140
企画実行委員・実行委員一覧	p.162
共催・協賛企業一覧	p.166
日本エンドオブライフケア学会 第4回学術集会開催にあたって	p.168

学術集会長挨拶

2019年9月14日（土）15日（日）、名古屋大学医学部基礎研究棟において、日本エンドオブライフケア学会 第3回学術集会を開催いたします。メインテーマは、「地域とつなぐ！アドバンス・ケア・プランニング（ACP）～介護から救急医療まで人生の物語を大切な人へ～」です。全ての地域で、市民と医療ケア提供者が一緒になって自分の価値観や意向を表明できるような、そんな地域文化が育まれるよう、参加者の皆様のお力添えを得て学術集会も盛り上げて参ります。

ACPはエンドオブライフケアの中核となるアプローチ方法であり、地域で展開される必要があります。地域とつなぐACPにおいて、市民は、人生で譲れないことや医療ケアの目標について、自分が望みさえすれば意思表示する機会を得ることができます。人生の最期にどのような医療ケアを受けたいか受けたくないか、どこで療養し最期の時を生き抜きたいかなどを意思表示できます。これが、地域とつなぐACPの理想像なのです。

実際、市民生活の場、介護や救急医療の場、様々な場でACPは重要です。ACPの場が医療機関だけではないことは明らかです。市民の生活の中にこそACPがあります。しかし、市民にとっても、医療ケア提供者にとっても、ACPについて語ることは決して簡単ではありません。市民が、ACPを自分のこととしてあたりまえのこととして捉えられるような地域作りが重要です。市民がACPを始めたいと望んだ時、その機会を提供できるようわれわれ医療ケア提供者は準備する必要があります。ACPコミュニケーションの知識を学び、研修や実践の中でACPに必要な態度・技術を身につけ、そして、ACPを展開するための仕組み作りをしなければなりません。

本学術集会のプログラムでは、介護と医療の垣根を取り払った様々な企画を準備いたしました。ACPはもとより、非がん疾患の緩和ケアのエビデンス、法律、倫理、哲学、医療安全、高齢者、小児、全ての領域が対象です。参加者同士がACPやエンドオブライフケアについて語り合う場を設けました。例年の3倍に及ぶ一般演題の応募があり、多くの素晴らしい演題が採択されました。介護支援専門員、生活相談員、介護士等、生活の場からの事例発表も含まれます。地域の多職種が一堂に会し、参加者相互が語り合う機会になることを願ってやみません。企画実行委員全員が、参加者の皆様とともに、会場のいたるところで参加者相互が語り合う光景が広がるような学術集会になるよう努めて参ります。是非、会場で会いましょう。お会いできることを楽しみにしております。

日本エンドオブライフケア学会 第3回学術集会

学術集会長 西川 満則

国立長寿医療研究センター 緩和ケア診療部
エンドオブライフケアチーム 医師

大会概要

学術集会の名称： 日本エンド オブ ライフ ケア学会 第3回学術集会
(<http://plaza.umin.ac.jp/eolcconf2019/index.html>)

テ ー マ： 地域とつなぐ! アドバンス・ケア・プランニング (ACP)
～介護から救急医療まで人生の物語を大切な人へ～

開 催 時 期： 2019年9月14日(土)～9月15日(日)

開 催 場 所： 名古屋大学医学部基礎研究棟
〒466-8550 愛知県名古屋市昭和区鶴舞町65番地

主 催： 一般社団法人日本エンド オブ ライフ ケア学会

学術集会長： 西川 満則(国立長寿医療研究センター 緩和ケア診療部)

運営事務局： 有限会社レモン介護サービス
〒476-0003 愛知県東海市荒尾町福田地2番1
Tel: 052-689-7877 Fax: 052-689-3533
E-mail: remon-soumu@arrow.ocn.ne.jp

学術集会の構成： 委員会企画・会長講演・特別講演・教育講演・シンポジウム・口演発表・示説発表
9月14日(土)～9月15日(日)

学会総会

9月15日(日) 11:30～12:00

ランチョンセミナー

9月14日(土) 12:30～13:20

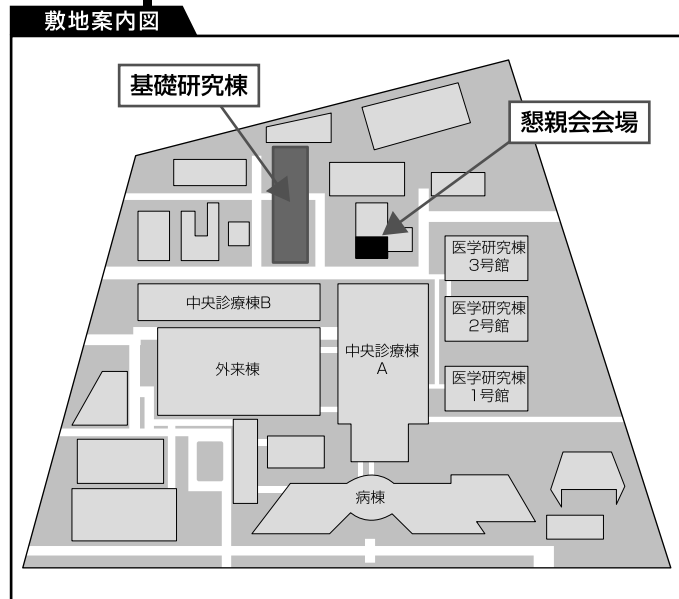
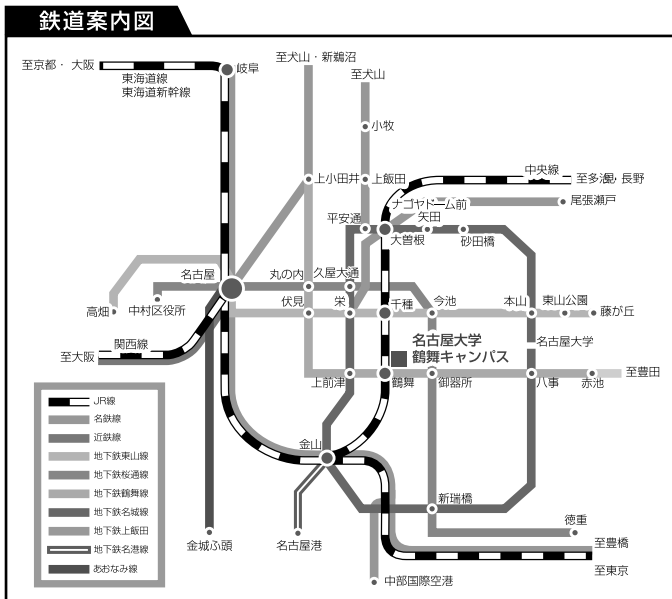
9月15日(日) 12:10～13:00

企業展示・書籍展示

9月14日(土) 10:00～17:00

9月15日(日) 9:30～16:00

会場へのご案内



交通案内

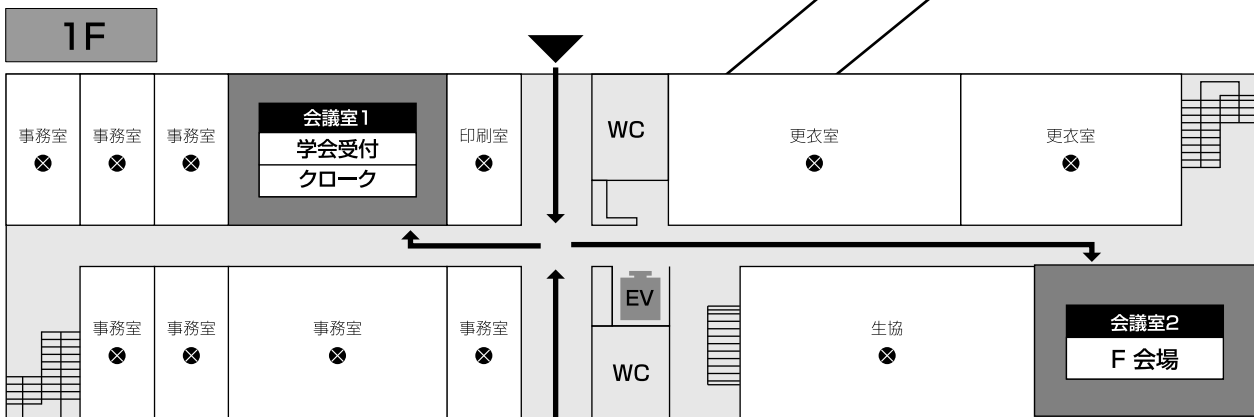
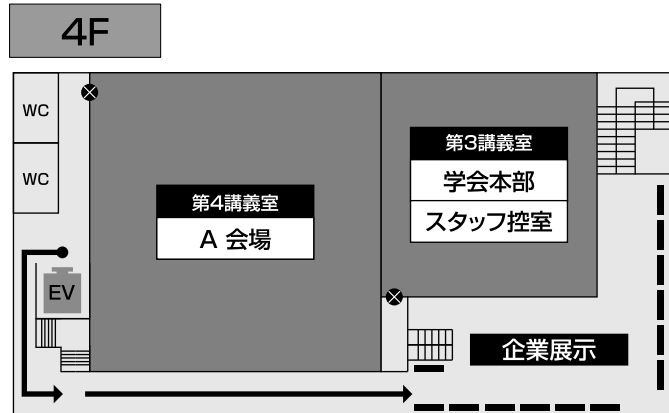
- JR 中央本線「鶴舞駅」(名大病院口側)下車徒歩 3 分。
- 地下鉄鶴舞線「鶴舞駅」下車徒歩 8 分。
- 市バス「栄」から栄 18 系統「妙見町」行きで「名大病院」下車。

会場案内図

名古屋大学 鶴舞キャンパス 基礎研究棟(講義棟)

階数	基礎研究棟(講義棟)
4階	第3講義室 / 第4講義室
3階	第1講義室・第2講義室 / 分子心血管病学(興和)(寄) / 肺高血圧先端治療学(寄) / 新規低侵襲画像診断法基盤開発研究(寄) / メカノバイオ ロジラボ / ゼミ室 / ラウンジ
2階	国際連携室 / 健康栄養医学 / メカノバイオ ロジラボ / 消化器内科学 / 神経内科学 / 腎臓内科学 / ゼミ室 / 学生研究会
1階	会議室1・会議室2 / 事務部 / 予防早期医療創成センター / 腎不全システム治療学(寄) / 保健 管理室 / 生協

*ポールドで記載の部屋を使用いたします。



中庭より

日程表

2019年9月14日(土) A会場～C会場

	A 会場	B 会場	C 会場
	第 4 講義室(4F)	第 2 講義室(3F)	第 1 講義室(3F)
9:00			
	受付開始 (1F 会議室 1)		
9:30	開会の挨拶		
10:00	9:30～11:20 【委員会企画】 エンドオブライフを支えるチームケア 【座長】平原 佐斗司		
10:30	「地域におけるエンドオブライフケア」 【演者】秋山 正子	10:30～11:20 【口演発表 1】 ACP 【座長】佐藤 一樹 01-1～01-5	10:30～11:20 【口演発表：事例・活動報告 1】 ACP 【座長】横江由理子 A01-1～A01-5
11:00	「介護施設におけるエンドオブライフケア」 【演者】島田 千穂		
11:30	11:30～12:20 【会長講演】 地域におけるアドバンス・ケア・ プランニング(ACP)の進め方 【座長】小森 栄作 【演者】西川 満則		
12:00			
12:30	12:30～13:20 【ランチョンセミナー 1】 正しい姿勢は骨格から～足裏に着目して～ 【座長】瀬口 雄一郎 【演者】邵基虎 (そきほ)		
13:00			
13:30	13:30～14:20 【特別講演 1】 当事者として向き合う「人生会議(ACP)」 の意味とその可能性 【座長】大島 真理子 【演者】金子 稚子	13:30～14:20 【教育講演 2】 死生観を醸成するための対話 【座長】内田恵美子 【演者】大野 裕美	
14:00			
14:30	14:30～15:20 【教育講演 1】 認知症の人の医療選択と意思決定支援 【座長】島内 節 【演者】成本 迅	14:30～15:20 【口演発表 2】 高齢者への EOL ケア 【座長】葉袋 淳子 02-1～02-5	14:30～15:20 【口演発表：事例・活動報告 2】 多職種連携 【座長】山本 純子 A02-1～A02-5
15:00			
15:30	15:30～17:50 【シンポジウム 1】 シンポジウム介護 「本人らしさを社会全体で支える介護」 ～本人の意思を尊重した尊厳ある生と死を 実現する地域での取り組み～ 【座長】長江 浩幸 遠藤 英俊 【演者】高井 隆一／菊池 和則／松下 繁行／ 川津 昭美／瀬口雄一郎／遠藤 英俊	15:30～17:50 【シンポジウム 2】 シンポジウム救急 救急現場における意思決定のジレンマ ～本人の意思を尊重した最後を迎えるために～ 【座長】伊藤 真理 杉浦 真 【演者】山崎 千草／宮林真沙代／相模 春香／ 神谷 悦功／杉浦 真／熊田 均	15:30～16:20 【口演発表：事例・活動報告 3】 在宅での看取り 【座長】福田由紀子 A03-1～A03-5
16:00			
16:30			16:30～17:20 【口演発表：事例・活動報告 4】 EOL ケア 【座長】長江 弘子 A04-1～A04-5
17:00			
17:30			
18:00	懇親会 生協食堂(会場隣棟)		
18:30			

日程表

2019年9月14日(土) D会場～F会場

	D会場 示説 D会場(ゼミ室 301)	E会場 示説 E会場(ゼミ室 302)	F会場 F会場(会議室2)
9:00			
	受付開始 (1F会議室1)		
9:30	9:00～11:00 ポスター貼付		9:30～11:20
10:00			【交流集会1】 「おたがいさまシート」を つかってみよう 【演者】西岡麻知子
10:30			
11:00			
	11:00～16:00	11:00～16:00	
11:30			
12:00			
12:30		【委員会企画】 広報委員会 「大切な人へのエンディングストーリー」	12:30～14:20
13:00	【示説B1群】 B1-1～B1-18	【示説B1群】 B1-19～B1-35	【交流集会2】 「もしバナゲーム™」を楽しんじゃいませよ！ ～カードゲーム体験と その射程を考えるワークショップ～ 【演者】大川 薫
13:30			
14:00	【発表時間】 13:00～16:00 (15分～30分程度)	【発表時間】 13:00～16:00 (15分～30分程度)	
14:30			
15:00			14:30～16:00
15:30			【交流集会3】 タナトロジーカフェ 【演者】大野 裕美
16:00			
16:30	16:00～17:00 ポスター撤去		16:10～17:40
17:00			【委員会企画】 抄録を書き学会で発表してみよう！ 【座長】小笠原知枝 【演者】加藤亜紀子
17:30			
18:00	懇親会 生協食堂(会場隣棟)		
18:30			

日程表

2019年9月15日(日) A会場～C会場

	A会場	B会場	C会場
	第4講義室(4F)	第2講義室(3F)	第1講義室(3F)
9:00			
	受付開始 (1F会議室1)		
9:30			
9:30~10:20	【特別講演2】 医療記者から見た 「アドバンス・ケア・プランニング」 【座長】鶴若 麻理 【演者】安藤 明夫	9:30~10:20 【口演発表3】 EOLC 教育 【座長】吉岡さおり 03-1~03-5	9:30~10:20 【口演発表:事例・活動報告5】 その他 【座長】島田 千穂 A05-1~A05-4
10:00			
10:30			
10:30~11:20	【特別講演3】 意思決定を支援すること ～当事者×セラピストとしての体験を通して～ 【座長】野田 智子 【演者】押富 俊恵	10:30~11:20 【口演発表4】 がん・心不全患者へのEOLC 【座長】安藤 詳子 04-1~04-5	10:30~11:20 【口演発表:事例・活動報告6】 活動報告 【座長】浅見 洋 A06-1~A06-4
11:00			
11:30			
11:30~12:00	総会		
12:00			
12:30			
12:30~13:00	【ランチョンセミナー2】 本人の意思を尊重するために、 ICTを用いてACPをつなぐ方法 【座長】西川 満則 【演者】岡村 紀宏		
13:00			
13:30			
13:30~14:00	【委員会企画】 研究を実施する上での 倫理的配慮について考えよう 【座長】鶴若 麻理 【演者】足立 智孝/小野若菜子/佐藤真由美	13:30~14:00 【口演発表5】 多職種連携 【座長】村岡 宏子 05-1~05-4	13:30~14:10 【交流集会7】 オマハシステムを活用し、エンドオブライフケアを 「見える化」しよう-事例展開とIT化した 日本語版オマハシステムを用いた実践の紹介- 【企画】一般社団法人 オマハシステムジャパン
14:00			
14:30			
14:30~15:20	【教育講演3】 日本初のエビデンス、COPD患者の 呼吸困難に対するモルヒネの効果 【座長】坂本 雅樹 【演者】松田 能宣	14:30~15:20 【口演発表6】 EOL ケア・グリーフケア 【座長】彦 聖美 06-1~06-6	14:30~15:20 【交流集会8】 ACPの普及啓発活動 【座長】杉浦 真 【演者】河井 文幸
15:00			
15:30			
16:00			
16:30	閉会の挨拶		
17:00			
17:30			
18:00			
18:30			

日程表

2019年9月15日(日) D会場～F会場

	D会場 示説 D会場(ゼミ室 301)	E会場 示説 E会場(ゼミ室 302)	F会場 F会場(会議室 2)
9:00			
	受付開始 (1F 会議室 1)		
9:30	9:00～11:00 ポスター貼付	11:00～16:00	9:30～11:20
10:00			【委員会企画】 自分に立ち戻り、自分の人生で何が 大切かを考えられる場所 ～病院でも在宅でもない マギーズ東京からの視点～ 【座長】長江 弘子 【演者】岩城 典子
10:30			
11:00			
11:30			
12:00			
12:30		【委員会企画】 広報委員会 「大切な人へのエンディングストーリー」	12:10～12:50【交流集会 4】 市民・多職種のための参加型ワークショップの経験から学ぶ 【座長】片山 陽子 【演者】小野若菜子／内田 恵美／ 永井知直実
13:00	【示説 B2 群】 B2-1～B1-19	【示説 B2 群】 B2-20～B1-38	13:00～13:30【交流集会 5】 諸外国の ACP に触れ、日本の ACP を見つめなおす 【座長】高橋 在也 【演者】内藤 由美／内藤 美暁
13:30			
14:00	【発表時間】 13:00～16:00 (15分～30分程度)	【発表時間】 13:00～16:00 (15分～30分程度)	13:40～14:10【交流集会 6】 余命半年の当事者の世界を聴く 【座長】内田 陽子 【演者】田島 玲子
14:30			14:20～15:50 【市民公開講座】 自分らしい人生の旅立ち・ 看取りを考える集い ～市民と医療職のまなざしが交わる～ 【プロデュース】西村 高宏／近田 真美子／ 高橋 在也
15:00			
15:30			
16:00			
16:30	16:00～17:00 ポスター撤去		
17:00			
17:30			
18:00			
18:30			

参加される方へのご案内

【日本エンドオブライフケア学会 第3回学術集会に参加される方へ】

受付時間：9月14日(土) 9:00～16:00

9月15日(日) 9:00～15:00

参加費:	事前参加登録	当日参加登録
正会員	8,000円	10,000円
学生会員	4,000円	5,000円
非会員	10,000円	12,000円

1) 事前参加登録をお済ませの方

7月31日(火)までに申し込み、9月1日(日)までに参加費納入の方

- ・事前参加登録受付にて確認を行い、事前に送付しました参加証(ネームカード)をご提示ください。
- ・受付を必ずお済ませください。

2) 当日参加希望(登録)の方

- ・当日参加登録受付で学術集会参加費(上記記載金額)をお支払ください。お支払いは、現金のみ承ります。
- ・参加費と引き換えに、参加証(ネームカード)と抄録集をお受け取りください。
- ・賛助会員は、1口当たり3名まで、5口以上は20名まで参加無料です。名刺をお持ちの上、総合受付までお越しください。

3) 参加証(ネームカード)について

- ・会場にご入場の際には、必ず参加証を着用してください。
- ・参加証用ホルダーをご用意していますので、首からさげてご使用ください。

4) 抄録集

- ・抄録集の追加購入をご希望の方は当日登録受付にて1冊1,000円にて販売いたします。
- ご希望の方は申込書にご記入の上お申し込みください。数に限りがございますので、お早めにお買い求めください。

5) 各セッションの聴講・参加時の注意事項

- ・セッションの内容によっては、途中からの聴講・参加ができない場合があります。
- ・各会場のスタッフの指示に従ってください。

6) ランチョンセミナー

14日(土)、15日(日)当日9:00よりランチョンセミナー受付で整理券をお渡しいたします。

人数に限りがございますため、整理券を受け取れない場合は昼食のご提供ができないことをご了承ください。

なお、整理券がなくても聴講は可能です。

7) 懇親会に参加される方へ

- ・9月14日(土)に生協食堂(会場隣棟)で開催いたします。皆様の参加をお待ちしています。

1) 事前に参加申し込みをされている方

- ・直接懇親会会場へお越しください。

2) 当日参加をご希望の方

- ・学術集会参加受付時にお申し込みの上、懇親会費 4,000 円をお支払いください。
- ・定員になり次第、締め切らせていただきますので、あらかじめご了承ください。
- ・お申し込み後、キャンセルされる場合でも、懇親会費はお返してできませんのであらかじめご了承ください。

8) 企業展示・書籍展示（販売）について

「4F 第 3 講義室」前にて実地します。是非、お立ち寄りください。

9) その他

1) 発表会場および館内のご利用に当たって

- ・発表者の承諾を得ずに、発表に関わる撮影・録音を行うことは、禁止させていただきます。
- ・会場は全館禁煙ですので、ご協力をお願いいたします。
- ・会場内の一部の施設は他の方も利用しますので、本学術集会の会場以外への入場は禁止とさせていただきます。
なお、会場の通路、お手洗いなどの共用部分についてはその限りではございませんが、ご利用される際には周囲へのご配慮をお願いいたします。
- ・会場内では携帯電話はマナーモードに設定し、周りの方のご迷惑とならないようにご配慮ください。

2) 飲食、休憩コーナーについて

- ・本学術集会の会場は終日飲食禁止となっております。
飲食の際は「2F ゼミ室」を「休憩室」として開放しておりますので、ご利用ください。

3) お荷物預り所（クローク）

- ・クロークは「1F 会議室 1」に設置しております。ご利用ください。
- ・開設時間：9月14日（土）9：00～17：30
9月15日（日）9：00～16：30
- ・お荷物はできるだけまとめていただきますようにご協力をお願いいたします。
- ・貴重品・パソコン・傘・壊れ物・食品はお預かりできませんのでご承知ください。
- ・懇親会に参加される方は、手荷物などをお引き取りいただいてからご参加ください。

4) 会場内での呼び出し

- ・会場内での呼び出しは行いませんが 1F の受付付近に伝言板を設置いたしますのでご利用ください。
- ・会場内にはスタッフ証をつけたスタッフがおりますので、お困りの際はお声掛けください。

5) 災害発生時の避難・救護について

- ・災害発生時には各会場の避難アナウンスに従ってください。
- ・会場内では非常口や避難経路をご確認ください。
- ・避難時にエレベーターは使用しないでください。
- ・必要時には受付スタッフにお申し出ください。

【PC 受付・発表について】

- (1) 演者の方は発表 1 時間前までに必ず PC 受付へお越しの上、受付を済ませてください。
- (2) 受付場所：3 階 ホワイエ
- (3) 受付時間：9 月 14 日（土）9：00～15：00
9 月 15 日（日）9：00～15：00
* 混雑が予想されますので、なるべくお早めに受付をお済ませください。
- (4) 発表時の PC 操作について
発表の際のページ送りは、演台に設置しておりますマウス、キーボードを使用して、演者自身で操作してください。
- (5) USB メモリにて発表データを持ち込みの方へ（Windows）
 - ・講演会場および PC 受付には Windows PC を用意いたします。
Macintosh の場合は PC 本体をお持込みください。
 - ・対応アプリケーションソフトは Windows Microsoft PowerPoint 2016 です。
他の Version の PowerPoint で作成された場合は、あらかじめ PowerPoint 2016 で動作状況をご確認ください。
 - ・使用フォントは標準で装備されているものをご使用ください。特殊なフォントの場合、表示ずれ、文字化けが生じることがありますのでご注意ください。
[推奨フォント] 日本語：MS ゴシック、MSP ゴシック、MS 明朝、MSP 明朝
英語：Arial、Times New Roman
※ PC 受付での試写の際に必ず文字等の確認を行ってください。
 - ・受付したデータはこちらでご用意した PC に登録し、USB はその場で返却いたします。
発表終了後、登録されたデータは学会事務局にて責任を持って消去いたします。
 - ・発表用のファイル名は「演題番号+氏名（ローマ字）」としてください。例) A-1-nishikawa
 - ・動画・音声等を含むデータの作成はなるべくご遠慮ください。
USB でデータファイルをお持ちいただく際には、以下を遵守してください。
 - ・動画ファイルは、Windows Media Player で再生可能なものをご使用ください。
(動画ファイルは wmv 形式を推奨いたします) その他の形式では再生できない可能性がございますのでご注意ください。
 - ・バックアップ用としてご自身の PC もご持参いただくことをお薦めいたします。
- (6) PC 本体をお持込の方へ（Windows,Macintosh）
 - ・お持ち込みいただく PC の機種、OS およびアプリケーションソフトの種類は問いません。
 - ・会場のプロジェクターへは、一般的な外部出力端子（D-sub 15pin）での接続となりますので、変換コネクタを必要とする場合は必ずご持参ください。
 - ・バッテリー切れ防止のため、AC アダプターを必ずご持参ください。
 - ・万が一の事故に備えて、ご自身のノート PC に保存されている重要なデータはバックアップをお取りください。

- ・また、発表データのバックアップとしてメディアをお持ちになることをお勧めいたします。
- ・発表終了後はすみやかに発表会場のオペレーター席にて、ご自身の PC をお引き取りください。

【各講演・シンポジウムの講師・シンポジストおよび座長の方へ】

- ・委員会企画・会長講演・特別講演・教育講演・シンポジウムの演者、座長の方は「4階 第3講義室」に各セッションの開始1時間前までにお越しください。
- ・演者の方は受付が済みましたらスタッフがご案内いたします。
- ・打ち合わせが必要な場合は、「4階 第3講義室」または「2F ゼミ室」をご利用ください。
- ・講演中の PC 画面操作は、発表者ご自身による手元操作になります。
- ・各セッションの進行は、座長にお任せいたします。詳細は必要に応じて演者と打ち合わせの上、時間内に終了するよう進行をお願いいたします。
- ・自身が参加のセッション開始10分前には会場内の次演者席または次座長席にご着席ください。

【口演形式の演者、座長の方へ】

発表時間：1演題9分（発表6分、質疑3分）

口演形式 演者の方へ

- ・演者の方は「1F 会議室1」の事前登録受付で受付を済ませたあとメディア受付で発表演題受付を済ませ、セッションの開始10分前に次演者席にご着席ください。
- ・演台上的マウスを各自で操作し発表を行ってください。講演終了1分前には合図をいたします。終了時間になりましたら座長からお知らせしますので定刻時間内に終了させてください。
- ・会場での資料配布はできません。
- ・発表者は座長の進行指示に従ってください。

口演形式 座長の方へ

- ・ご担当セッション開始10分前までに次座長席にご着席ください。
- ・各セッションの進行は座長の方にお任せしますが、定刻どおり進行できるよう時間厳守をお願いいたします。

【示説形式の演者の方へ】

示説発表受付

- ・示説発表者の受付はございません。直接ポスター会場「3F ゼミ室 301・302」へお越しください。

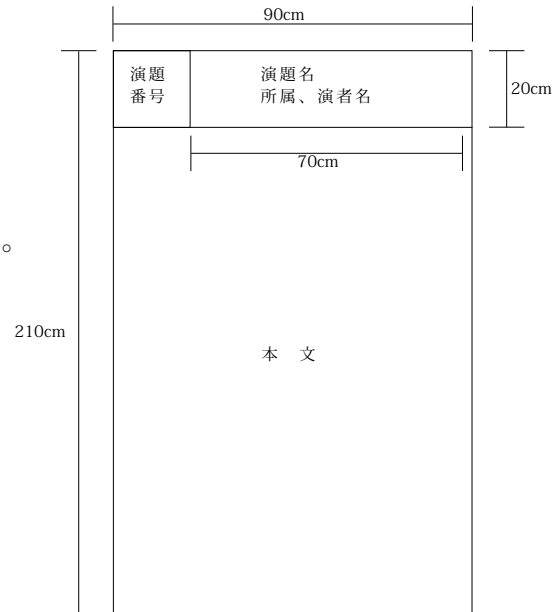
発表について

- ・発表時間は13:00～16:00の中の15分～30分程度とします。
- ・発表時間をご自身でお決めいただき、ポスター下にご記載ください。
(発表時間を記載する用紙は学術集会事務局でご用意いたします)
- ・指示棒等は本学術集会でのご用意はございません。各自ご用意ください。

ポスターの貼付け、撤去について

- ・ポスターパネルは演題番号、タイトルの部分を除き横 90 cm × 縦 210 cm の大きさです。
- ・タイトル部分は横 70 cm × 縦 20 cm の大きさで、演題名、演者（共同演者）、所属を記入したものをご用意ください。
- ・演題番号はボードとともに事務局で用意いたします。
- ・貼付用の文具（画鋏、ペン）は会場に用意いたします。
- ・貼付時間：発表当日 9：00～11：00
- ・撤去時間：発表当日 16：00～17：00

※撤去時間を超過して貼付してある場合、事務局にて処分させていただきますのでご了承ください。



【個人情報保護法に関するお願い】

2006年4月より上記法律が施行されております。

ご発表内容に関して、個人が識別され得る症例の提示に際しては演者が患者のプライバシー保護の観点から十分に注意を払い、ご発表頂くようお願い致します。

【交流集会主催者の方へ】

- ・交流集会の受付はございません。直接会場へお越しください。
- ・参会者の退室および仕様変更の復元、撤去を時間内に終了するようにお願いいたします。開始時刻、終了時刻を厳守してください。
- ・交流集会は自主運営です。会場にはPC1台、プロジェクター1台、スクリーン、マイクをご用意させていただきますが、その他必要な資材・機材は各自でご準備ください。

プログラム

9月14日(土) 第1日目

掲載順

開催日の会場ごと時間順にて掲載させていただきます。

委員会企画

9月14日 A会場 9:30～11:20

p.46～

座長：平原 佐斗司（梶原診療所）

EOLを支える専門職委員会セミナー：エンドオブライフを支えるチームケア

CP-1 地域におけるエンドオブライフケア
人生100年時代を支える訪問看護の現場から

○秋山 正子

NPO 法人マギーズ東京 共同代表理事 センター長

CP-2 介護施設におけるエンドオブライフケア

○島田 千穂

東京都健康長寿医療センター研究所・福祉と生活ケア研究チーム

学術集会長講演

9月14日 A会場 11:30～12:20

p.51

座長：小森 栄作（ももたろう往診クリニック）

学術集会長講演 地域におけるアドバンス・ケア・プランニング（ACP）の進め方

○西川 満則

国立長寿医療研究センター 緩和ケア診療部

ランチョンセミナー1

9月14日 A会場 12:30～13:20

p.72

主催：株式会社ジョイライフ／株式会社クレセント

座長：瀬口 雄一郎（株式会社クレセント 代表取締役）

LS-1 正しい姿勢は骨格から ー足裏に着目してー

○邵基虎（そきほ）

株式会社ジョイライフ

特別講演1

9月14日 A会場 13:30～14:20

p.52

座長：大島 真理子（老テク研究会）

SL-1 当事者として向き合う「人生会議（ACP）」の意味とその可能性

○金子 稚子

終活ジャーナリスト／一般社団法人 日本医療コーディネーター協会 共同代表理事

座長：島内 節（日本在宅ケア教育研究センター）

EL-1 認知症の人の医療選択と意思決定支援

○成本 迅

京都府立医科大学大学院医学研究科精神機能病態学

シンポジウム1（シンポジウム介護）

座長：長江 浩幸（総合病院南生協病院）

遠藤 英俊（国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター）

S-1 認知症患者の一人歩き --- 家族の思いと「よいお節介」

○高井 隆一

認知症鉄道事故裁判・遺族 認知症の人と家族の会愛知県支部会員

S-2 認知症高齢者の一人歩きによる行方不明－研究者の視点から－

○菊地 和則

東京都健康長寿医療センター研究所

S-3 ひとりの「困った」に寄り添う「おたがいさま」の街づくり
～まちの有志「男塾」の取り組み～

○松下 繁行

南医療生活協同組合 副理事長

S-4 豊明市おたがいさまセンター“ちゃっと”の報告
：自治体と住民の協働の取り組み

○川津 昭美

南医療生活協同組合 副理事長

S-5 介護職になって良かった！という福利厚生に対する社会（地域）全体での取り組み

○瀬口 雄一郎

株式会社クレセント 代表取締役

S-6 まとめ ～本人らしさを社会全体で支える介護～

○遠藤 英俊

国立研究開発法人 国立長寿医療研究センター

01-1 訪問看護師が意向確認する状況やタイミングからみた独居高齢者のアドバンスケアプランニング

○鶴若 麻理¹⁾、大桃 美穂²⁾

¹⁾ 聖路加国際大学生命倫理分野、²⁾ 町田市民病院 看護部

**01-2 独居高齢者のアドバンスケアプランニング
～多職種連携における訪問看護師の役割～**

大桃 美穂¹⁾、鶴若 麻理²⁾

¹⁾ 町田市民病院 看護部、²⁾ 聖路加国際大学生命倫理分野

01-3 がん看護と非がん看護別にみた看護師の Advance Care Planning : ACP 実施の行動意図の影響要因：第一報 ACP 実施に対する思い

○長谷川 智子、橋本 容子

福井大学学術研究院 医学系部門看護学領域

01-4 一般市民における Advance Care Planning に対する認識の実態調査

○坂井 志麻¹⁾、長江 弘子²⁾、原沢 のぞみ²⁾、岩崎 孝子²⁾、川原 美紀²⁾、片山 陽子³⁾、竹ノ内 沙弥香⁴⁾、池田 真理²⁾、伊藤 真理⁵⁾、田村 恵子⁴⁾、宮下 光令⁶⁾

¹⁾ 杏林大学、²⁾ 東京女子医科大学、³⁾ 香川県立保健医療大学、⁴⁾ 京都大学大学院、⁵⁾ 川崎医科大学総合医療センター、⁶⁾ 東北大学大学院

**01-5 市民と専門職で協働する日本型対話促進 ACP 介入モデルプログラム
～リフレクションによる効果の検討～**

○原沢 のぞみ¹⁾、長江 弘子¹⁾、岩崎 孝子¹⁾、高橋 在也²⁾、坂井 志麻³⁾、川原 美紀¹⁾、仁科 祐子⁴⁾、田村 恵子⁵⁾

¹⁾ 東京女子医科大学看護学部、²⁾ 千葉大学大学院、³⁾ 杏林大学保健学部看護学科、⁴⁾ 鳥取大学医学部保健学科、⁵⁾ 京都大学大学院

EL-2 死生観を醸成するための対話

○大野 裕美

豊橋創造大学

**O2-1 高齢入院患者のせん妄、BPSD、QOLの変化とその関連性
－入院前から入院後5週間を追った縦断的研究－**

○松井 彩花¹⁾、内田 陽子²⁾、井上 祐美子³⁾、佐々木 菜生³⁾、清水 みどり⁴⁾、
河端 裕美⁴⁾、小山 晶子²⁾、高橋 陽子⁴⁾

¹⁾ 済生会前橋病院、²⁾ 群馬大学大学院保健学研究科、³⁾ 群馬大学医学部附属病院
⁴⁾ 公益財団法人脳血管研究所 附属美原記念病院

O2-2 高齢者の事前指示書の作成行動に関与する諸要因

○小川 菜津子¹⁾、小笠原 知枝²⁾、木村 明子³⁾、江坂 美保⁴⁾

¹⁾ 公立西知多総合病院、²⁾ 人間環境大学大学院、³⁾ 名古屋大学医学部附属病院、
⁴⁾ 京都府立医科大学大学院

O2-3 認知症高齢者に対する看護師の意思決定支援の状況とその関連要因

○濱崎 彩子¹⁾、片山 陽子²⁾

¹⁾ 訪問看護ステーションQちゃん、²⁾ 香川県立保健医療大学

O2-4 看護師の死生観に関する質的システマティックレビュー

○永山 弘子¹⁾、小笠原 知枝¹⁾、井村 香積²⁾、田島 真智子³⁾、田中 里美⁴⁾、新井 祐恵⁵⁾、
對中 百合⁶⁾、小川 菜津子⁷⁾、木村 明子⁸⁾、江坂 美保⁹⁾

¹⁾ 人間環境大学大学院、²⁾ 三重大学大学院、³⁾ 岐阜聖徳学園大学、⁴⁾ 岐阜医療科学大学⁵⁾ 甲南女子大学、
⁶⁾ 畿央大学、⁷⁾ 公立西知多総合病院、⁸⁾ 名古屋大学医学部附属病院、⁹⁾ 京都府立医科大学大学院

O2-5 超高齢者の治療の選択に伴う医療者のジレンマ

○島田 千穂¹⁾、伊東 美緒¹⁾、藤村 朗子²⁾

¹⁾ 東京都健康長寿医療センター研究所、²⁾ 東京医療保健大学

**S-7 救急現場における意思決定支援のジレンマ
～本人の意思を尊重した最後を迎えるために～**

○山崎 千草

東京女子医科大学病院／東京女子医科大学大学院

S-8 DNARの意思表示と救急搬送の実態

○宮林 真沙代

成田記念病院 麻酔科

S-9 DNAR 提示による不搬送症例

○相模 春香

知多中部広域事務組合消防本部

S-10 「自宅で最期を」望まない蘇生処置と救急搬送を中止するには

○神谷 悦功

国立病院機構東名古屋病院 血液・腫瘍内科

S-11 臨床倫理コンサルテーションの視点から救急現場での蘇生中止を考える

○杉浦 真

愛知県厚生連安城更生病院 脳神経内科 在宅医療連携推進センター長

**S-12 医療現場における本人の医療決定権を巡る法的整理
～救急現場を念頭に置きながら～**

○熊田 均

日本弁護士連合会・愛知県弁護士会／弁護士

口演発表 事例・活動報告 (AO-1群) ACP

9月14日 C会場 10:30～11:20

p.105～

座長：横江 由理子 (いきいき在宅クリニック)

**AO1-1 末期心不全患者のアドバンス・ケア・プランニング
－ A 氏の望みを支えた、最期まで生き抜くための意思決定支援－**

○中西 愛

地方独立行政法人 明石市立市民病院

**AO1-2 エンドオブディスカッションから始まる QOD
～米国ホスピスグリーンフカウンセラーの介入事例～**

○森田 亜紀、Psy.D.

ホスピスハワイ

AO1-3 ACP における意見対立に対し、対話を通して合意形成した事例

○大城 京子

(株)Old-Rookie 快護相談所 和び咲び

AO1-4 心不全患者の ACP を通して気づいた当事者の世界

○伊藤 真理、吉廻 みゆき

川崎医科大学総合医療センター看護部

**A01-5 意思確認が困難な認知症を持つ入院患者の終末期ケアにおける課題
－他院から転院した患者の事例報告より－**

○舟田 眞美¹⁾、曾根 志穂²⁾、彦 聖美³⁾

¹⁾ 町立宝達志水病院 地域医療連携室 保健師、²⁾ 石川県立看護大学 地域看護学講座 講師、

³⁾ 金城大学 看護学部 教授

口演発表 事例・活動報告 (AO-2群) 多職種連携

9月14日 C会場 14:30～15:20

p.108～

座長：内田 陽子（群馬大学大学院）

**A02-1 リハビリによる終末期援助を受け希望を叶えることのできた2症例
－最後までその人らしく生きるために－**

○鬼頭 有子¹⁾、杉浦 真²⁾、伊藤 大貴¹⁾

¹⁾ JA 愛知厚生連 安城更生病院 リハビリテーション技術科、

²⁾ JA 愛知厚生連 安城更生病院 脳神経内科

A02-2 在宅での看取りにおける多職種連携への一考察 ～事例から見る現状と課題～

○宮下 善美

株式会社はみんぐ代表取締役 訪問看護ステーションはみんぐ管理者

A02-3 本人の思いを叶えるためにケアマネジャーができること

○上 麻紀

(医) 橘会 居宅介護支援事業所 万年青

**A02-4 特別養護老人ホームでのミールラウンドにおける人生会議
(エンドオブライフディスカッション)**

○石田 加代子

社会福祉法人福寿 特別養護老人ホーム さわやかなの郷

**A02-5 意思決定後の‘ゆらぐ気持ち’に多職種が連携をした1症例
鍼灸マッサージ師としての参加**

○牧 裕美

牧鍼灸院

口演発表 事例・活動報告 (AO-3群) 在宅での看取り

9月14日 C会場 15:30～16:20

p.111～

座長：福田 由紀子（人間環境大学）

A03-1 HCUにおける非がん疾患患者の希望をかなえたエンドオブライフケア

○小池 彩乃、瀬間 香織、高橋 真美

富岡地域医療企業団 公立富岡総合病院

A03-2 「最後までおうちで過ごしたい」 ～ 90 歳代独居末期がん患者の意思決定を支援する訪問看護師の役割～

○森本 広子

リンクハート株式会社 ゆい訪問看護ステーション

A03-3 ALS 患者の望む生活の実現を住み慣れた街でどう支えて行くか

○新美 千寿代¹⁾、河井 丈幸²⁾

¹⁾JA 愛知厚生連 安城更生病院 更生介護保険センター、²⁾一般社団法人 安城市医師会

A03-4 最期を自宅で迎える希望をかなえた独居高齢者の 18 年間の支援を振り返る

○近藤 芳江¹⁾、佐竹 重彦²⁾、稲田 眞由美¹⁾、小澤 明美³⁾、後藤 加志子³⁾、加藤 裕子⁴⁾

¹⁾APLE 株式会社 居宅介護支援ハートサービス近藤、²⁾木の香往診クリニック、

³⁾APLE 株式会社 ハートサービス近藤、⁴⁾一般財団法人名古屋市療養サービス事業団

A03-5 がん終末期患者の「自宅に帰りたい」をかなえて

○関島 千代、星原 美保子

南生協病院 緩和ケア病棟

口演発表 事例・活動報告 (AO-4群) EOLケア

9月15日 C会場 16:30～17:20

p.114～

座長：長江 弘子（東京女子医科大学）

A04-1 有料老人ホームでの EOLC を訪問看護で支えた 1 事例

○田島 玲子

グループホームあかつき訪問看護ステーション

A04-2 最期の時まで自分らしくいるための意思決定 ～苦しみの中での支え～

○天野 かおり

総合病院 南生協病院 緩和ケア病棟

A04-3 その人らしさに寄り添う ～看護師との関わりを通して～

○山本 梨恵

社会福祉法人愛光園 介護老人保健施設相生

A04-4 医療者が家族を看取った際の心の動きに関する考察

○白井 啓子

合同会社オフィスK あつと訪問看護ステーション

A04-5 認知症高齢者に対する回想法とエンディングノートを組み合わせた 意思決定支援の試み

○松若 良介¹⁾、熊抱 潤²⁾、岡 やよい²⁾、古家 久枝³⁾、西元 正⁴⁾

¹⁾松若医院、²⁾阪南市西鳥取・下荘圏域地域包括支援センター、

³⁾回想法ボランティアグループ「スイートピー」、⁴⁾グループホーム第2 ふれあい四季の郷

- B1-1 高齢者向け住まいにおける ACP を支援する EOLC パス原案の作成**
○戸谷 幸佳¹⁾、内田 陽子¹⁾、梨木 恵実子¹⁾、河端 裕美²⁾、齊田 綾子³⁾、宮澤 真優美⁴⁾、相場 健一⁵⁾、鈴木 峰子⁶⁾、福田 未来⁷⁾、小池 彩乃⁶⁾
¹⁾群馬大学大学院保健学研究科、²⁾美原記念病院、³⁾公立七日市病院、⁴⁾特別養護老人ホーム高風園、⁵⁾介護老人保健施設アルボース、⁶⁾公立富岡総合病院、⁷⁾認定 NPO 法人じゃんけんぼん金井淵
- B1-2 入退院を繰り返す高齢患者の家族が自宅療養中に抱く不安を知る
～カルテから振り返る～**
○鈴木 峰子、生駒 あづさ、守田 弘美、小池 瞬、井田 てる恵
公立富岡総合病院
- B1-3 老人看護 CNS からみた地域に必要な高度実践看護技術**
○梨木 恵実子¹⁾、内田 陽子¹⁾、戸谷 幸佳¹⁾、齊田 綾子²⁾、河端 裕美³⁾、佐藤 文美⁴⁾
¹⁾群馬大学大学院保健学研究科、²⁾公立七日市病院、³⁾美原記念病院、⁴⁾じゃんけんぼん観音寺
- B1-4 死についての語り合いによる看護師の死生観への影響**
○鐘築 亜耶、勝部 華希、錦織 仁美
島根県立中央病院 8 階西病棟
- B1-5 患者の意向を「つなぐ」在宅診療所 ACP ファシリテーターのアウトリーチ**
○谷本 真理子¹⁾、西川 満則²⁾、三浦 久幸²⁾
¹⁾東京医療保健大学医療保健学部/医療保健学研究科、²⁾国立長寿医療研究センター
- B1-6 がん看護と非がん看護別にみた看護師の Advance Care Planning : ACP 実施の行動意図の影響要因：第二報 ACP 実施に関するケアのスキルおよび組織での取り組み**
○橋本 容子、長谷川 智子
福井大学学術研究院 医学系部門看護学領域
- B1-7 在宅看取りを可能にする要因の文献検討**
○北村 美恵子、福田 由紀子
人間環境大学大学院看護学研究科
- B1-8 急性期病院の看護師のターミナルケアに対する意識
－日本語版ターミナルケア態度尺度を用いて－**
○瀧澤 香、池田 由香里
東京都立大塚病院 看護部 外科混合病棟

- B1-9 沖縄県統一緩和ケア情報シートを用いた意思決定支援におけるACPプロセスへの効果に関する一考察**
○山田 綾美、大久保 礼子、増田 昌人
¹⁾ 琉球大学医学部附属病院がんセンター
- B1-10 A 病院におけるアドバンス・ケア・プランニングの現状と課題**
○新内 香菜子、北木 弥生
済生会広島病院
- B1-11 透析患者のアドバンス・ケア・プランニング（ACP）を考える**
○中山 こず恵¹⁾ 中田 みのり¹⁾ 中田 幸代¹⁾ 藤田 恭子¹⁾、高澤 和也¹⁾、彦 聖美²⁾
¹⁾ 白山石川医療企業団 公立つるぎ病院 血液浄化センター、²⁾ 金城大学看護学部看護学科
- B1-12 介護職の看取り介護についての取り組み～より充実した看取りにするために～**
○守屋 直和¹⁾、福田 亮子²⁾
¹⁾ (医) 光緑会 グループホーム ラビットホーム、²⁾ (医) 光緑会 やわたクリニック
- B1-13 非がん患者における一般病棟での治療抵抗性苦痛緩和のための鎮静薬使用状況の検討**
○加藤 涼子¹⁾、前田 圭介²⁾、森 直治²⁾
¹⁾ 愛知医科大学病院 薬剤部、²⁾ 愛知医科大学病院 緩和ケアセンター
- B1-14 認知症高齢者の一人歩きによる行方不明への市区町村の対応と SOS ネットワークの関係に関する研究**
○菊地 和則¹⁾、池田 直樹²⁾、岸 恵美子³⁾、池田 恵利子⁴⁾、高橋 智子⁵⁾、大口 達也⁶⁾
¹⁾ 東京都健康長寿医療センター研究所、²⁾ 上本町総合法律事務所、³⁾ 東邦大学、
⁴⁾ あい権利擁護支援ネット、⁵⁾ 東京都福祉保健財団、⁶⁾ 高崎健康福祉大学
- B1-15 訪問看護における高齢者の在宅看取りに関する終末期ケアの特徴**
○加藤 亜妃子¹⁾、山本 純子²⁾、小笠原 知枝¹⁾
¹⁾ 人間環境大学看護学部看護学研究科、²⁾ 大手前大学国際看護学部
- B1-16 臨死期の在宅高齢者とその家族における訪問看護師の意思確認へのケア支援**
○山本 純子¹⁾、小笠原 知枝²⁾、加藤 亜妃子²⁾
¹⁾ 大手前大学国際看護学、²⁾ 人間環境大学看護学部看護学研究科
- B1-17 終末期における末梢静脈輸液から皮下輸液への移行を決定する際の看護師の思い**
○佐藤 伶美¹⁾、田畑 和美¹⁾、軽海 文博¹⁾、大森 有里¹⁾、大橋 摩利¹⁾、彦 聖美²⁾
¹⁾ 医療法人社団 和楽仁 芳珠記念病院、²⁾ 金城大学看護学部看護学科

B1-18 スピリチュアルニーズとケアに関する国内文献検討から在宅スピリチュアルケアを探る

○佐々木 裕子¹⁾、島内 節²⁾、西川 まり子³⁾

¹⁾ 愛知医科大学看護学部、²⁾ 日本在宅ケアセンター、³⁾ 人間環境大学大学院看護学研究科

示説1群 (B1-19~35)

9月14日 E会場 11:00~16:00

p.131~

**B1-19 終末期における認知症高齢者の「最善」を模索する
—輸液に対するそれぞれの想い—**

○定松 ルリ子

一般社団法人松山市医師会 訪問看護ステーション松山市医師会

**B1-20 呼吸苦を訴えても人工呼吸器装着を選択しなかった ALS 患者の
エンドオブライフケア**

○伊藤 千鶴

湘陽かしわ台病院

B1-21 患者本人の思いをかなえることの難しさを痛感した一事例

○小林 雅美

社会福祉法人 聖霊会 聖霊病院 看護部

**B1-22 特別養護老人ホームに入所した 50 歳代前半女性の覚悟ある旅行と旅立ち
—多系統萎縮症患者 1 事例の検討—**

○鈴木 裕美¹⁾、加藤 志をじ²⁾

¹⁾ 社会福祉法人 すずらん福社会 橋北楽々館在宅介護支援センター、

²⁾ 四日市社会福祉協議会 居宅介護支援事業所ゆりかもめ

B1-23 在宅療養中の進行性筋ジストロフィー患者の生きる希望を再構築する支援

○吉村 元輝、坂口 博紀、曾雌 哲也、馬場 千尋、西郷 嘉基、佐藤 歩、早川 潤、
藤野 泰平

みんなのかかりつけ訪問看護ステーション

**B1-24 在宅療養高齢者を支える家族に対するスピリチュアリティへの対応
— A 看護学生の実習リフレクションからの考察 —**

○信組 麻里

独立行政法人国立病院機構名古屋医療センター附属名古屋看護助産学校

**B1-25 意思決定における看護師の役割
—自己の存在価値を見出し自宅で最期を迎えた事例—**

○松浦 明海

名古屋市療養サービス事業

D
会場

E
会場

B1-26 訪問看護師が気づく死期のサインを臨死期の判断と支援に活かした2事例

○尾崎 美智、伊賀 博子

滝宮総合病院 訪問看護ステーションたきのみや

B1-27 100歳過ぎまで生きぬいた祖母の特養での看取りを振り返る○内田 陽子¹⁾、内田 美貴²⁾¹⁾ 群馬大学大学院保健学研究科、²⁾ 地域診療情報連携協議会**B1-28 膵臓癌末期患者の疼痛・合併症状を含めた苦痛におけるNRS以外の評価活用の重要性**○間瀬 太佳予¹⁾、天野 弘子¹⁾、山下 ひろみ¹⁾、蟹江 広人¹⁾、下里 奈緒美¹⁾、松原 良子¹⁾、長谷川 奈々子¹⁾、柿田 尚子¹⁾、小倉 行雄²⁾¹⁾ 株式会社オリジンフラワーサーチ大府、²⁾ 医療法人社団明照会**B1-29 施設入居の親と先の見えない介護から終末期での家族の関わり方の振り返り**

○中野 公平、保科 和美

介護BKラボ

B1-30 緩和ケア病棟において、チームで最期まで意思決定を支えられた事例

○西出 芙美、藤内 真理子、出口 純子

福岡聖恵病院 聖恵ビハラー

B1-31 呼吸困難をもつ終末期非がん性呼吸器疾患患者の排泄行為を倫理的側面から考察した一例○成田 亜侑美¹⁾、小中 直子¹⁾、長屋 央子¹⁾、藤崎 浩太郎¹⁾、松田 由紀子¹⁾、西川 満則²⁾¹⁾ 国立長寿医療研究センター看護部、²⁾ 国立長寿医療研究センター緩和ケア診療部**B1-32 地域住民へのアドバンス・ケア・プランニング（ACP）普及の実践事例～A市における医療介護連携を通して～**○岡本 美代子¹⁾、森林 友佳子²⁾、千明 ひろみ³⁾、鈴木 比紗子⁴⁾、島田 広美¹⁾、齋藤 尚子⁵⁾¹⁾ 順天堂大学医療看護学部、²⁾ 浦安市猫実地域包括支援センター、³⁾ 船橋市介護保険課、⁴⁾ 浦安市高齢者包括支援課、⁵⁾ 東京医療保健大学千葉看護学部**B1-33 都市部在住の高齢者に対する死生観教育を含めた健康美容教室の実践報告**○大平 智祉緒¹⁾、秋野 友希¹⁾、岡本 美代子²⁾¹⁾ NOTICE、²⁾ 順天堂大学医療看護学部**B1-34 地域でACPを広めるための取り組みと課題－途中経過の報告－**

○花岡 雅子

JA 長野厚生連 北信総合病院

B1-35 訪問薬剤師のACP活動の効果

○宇野 達也、柴田 賢三
ヤナセ薬局在宅医療部

交流集会1

9月14日 F会場 9:30～11:20

p.73

EM1 “おたがいさまシート”をつかってみよう

○西岡 麻知子
南医療生活協同組合 地域ささえあいセンター部長

交流集会2

9月14日 F会場 12:30～14:20

p.74

企画：萩野美恵子（国際医療福祉大学）

EM2 「もしバナゲーム™」を楽しんじゃいませよ！ ～カードゲーム体験とその射程を考えるワークショップ～

○大川 薫¹⁾、蔵本 浩一²⁾、原澤 慶太郎³⁾

¹⁾医療法人鉄蕉会亀田総合病院 在宅診療科 一般社団法人 iACP

²⁾医療法人鉄蕉会亀田総合病院 疼痛緩和ケア科 一般社団法人 iACP

³⁾はな医院 一般社団法人 iACP

交流集会3

9月14日 F会場 14:30～16:00

p.75

EM3 タナトロジーカフェへようこそ

○大野 裕美
豊橋創造大学

委員会企画

9月14日 F会場 16:10～17:40

p.48

座長：小笠原知枝（人間環境大学）

委員会企画 編集（交流集会）：抄録を書き、学会で発表してみよう！

CP-3 抄録を書き、学会で発表してみよう！

○小笠原 知枝¹⁾、長谷川 智子²⁾、薬袋 淳子³⁾、村岡 宏子⁴⁾、伊藤 美佐江⁵⁾、
吉岡 さおり⁶⁾、加藤 亜妃子⁷⁾

¹⁾人間環境大学大学院看護学研究科、²⁾福井大学、³⁾岐阜医療科学大学、⁴⁾順天堂大学大学院、

⁵⁾山口大学、⁶⁾京都府立医科大学大学院、⁷⁾人間環境大学

E
会
場

F
会
場

プログラム

9月15日（日） 第2日目

掲 載 順

開催日の会場ごと時間順にて掲載させていただきます。

特別講演2

9月15日 A会場 9:30～10:20

p.53

座長：鶴若 麻理（聖路加国際大学）

SL-2 医療記者から見た「アドバンス ケア プラニング」

○安藤 明夫

中日新聞 編集委員

特別講演3

9月15日 A会場 10:30～11:20

p.54

座長：野田 智子（江南厚生病院）

SL-3 意思決定を支援すること ～当事者×セラピストとしての体験を通して～

○押富 俊恵

NPO 法人ピース・トレランス 代表理事／作業療法士

総会

9月15日 A会場 11:30～12:00

ランチョンセミナー2

9月15日 A会場 12:10～13:00

p.72

主催：帝人ファーマ株式会社

座長：西川 満則（国立長寿医療研究センター 緩和ケア診療部）

LS-2 本人の意思を尊重するために、ICT を用いて ACP をつなぐ方法

○岡村 紀宏

社会医療法人 恵和会 西岡病院／北海道 医療ソーシャルワーカー

委員会企画 倫理

9月15日 A会場 13:10～14:10

p.50

座長：鶴若 麻理（聖路加国際大学）

市民との集い

CP-5 研究を実施する上での倫理的配慮について考えよう

○足立 智孝¹⁾、小野 若菜子²⁾、佐藤 真由美³⁾、鶴若 麻理²⁾¹⁾ 亀田医療大学大学院、²⁾ 聖路加国際大学大学院、³⁾ 国際医療福祉大学大学院

教育講演3

9月15日 A会場 14:20～15:20

p.57

座長：坂本 雅樹（名古屋徳洲会総合病院）

EL-3 日本初のエビデンス、COPD 患者の呼吸困難に対するモルヒネの効果

○松田 能宣

国立病院機構 近畿中央呼吸器センター 心療内科

03-1 看護学生対象の高齢がん患者退院支援教育介入プログラムの開発にむけた検証

○田島 真智子¹⁾、小笠原 知枝¹⁾、田中 里美¹⁾、永山 弘子¹⁾

人間環境大学大学院看護学研究科

03-2 苦しみから学ぶ『いのちの授業』により中学生が意識した自らの支えについての調査

○久保田 千代美

訪問看護ステーションひゅっぐりー

03-3 BPSDの予兆を捉え回避するための“不同意メッセージ”という概念の学習効果

○伊東 美緒¹⁾、島田 千穂²⁾、藤生 大我³⁾、山口 晴保³⁾

¹⁾群馬大学大学院保健学研究科、²⁾東京都健康長寿医療センター研究所、
³⁾認知症介護研究・研修東京センター

03-4 エンドオブライフケアの概念を基盤にしたナースプラクティショナーの実践能力に関する文献検討

○長江 弘子¹⁾、高橋 在也²⁾、原沢 のぞみ¹⁾、高 紋子¹⁾、岩崎 孝子¹⁾、那須 真弓³⁾、川添 紀子⁴⁾

¹⁾東京女子医科大学看護学部、²⁾千葉大学大学院看護学研究科、³⁾茨城県立医療大学、
⁴⁾東京女子医科大学病院

03-5 シミュレーションを取り入れたEOLケア教育の効果

○佐藤 睦美

大原総合病院

04-1 エンドオブライフケアにおける一般病棟看護師の慢性心不全患者に対する意思決定支援の構成要素

○江坂 美保¹⁾、小笠原 知枝²⁾、小川 菜津子³⁾、木村 明子⁴⁾

¹⁾京都府立医科大学大学院、²⁾人間環境大学大学院、³⁾公立西知多総合病院、
⁴⁾名古屋大学医学部附属病院

04-2 在宅看取りを行った慢性心不全・がん患者遺族から実施した満足度アンケート調査の比較

○神谷 仁孝¹⁾、神谷 守雄¹⁾

神谷内科整形外科

**04-3 終末期がん療養者に対する情報提供や意思決定支援に関する訪問看護師の考え
—質的統合法 (KJ法) による構造化—**○秋山 正子¹⁾、²⁾、河井 伸子¹⁾、神出 計¹⁾¹⁾大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻、²⁾兵庫大学看護学部看護学科**04-4 心不全患者が抱く人生の最終段階のイメージに関するインタビュー調査**

○西川 裕理

東京医科歯科大学 大学院 保健衛生学研究科

04-5 終末期がん患者の死亡時期に影響を与えている要因に関する研究○矢動丸 莉奈¹⁾、鈴木 千草¹⁾、大橋 純子¹⁾、坂本 雅樹¹⁾

名古屋徳洲会総合病院

口演発表5 (0-5群) 多職種連携

9月15日 B会場 13:10～14:00

p.100～

座長：村岡 宏子 (順天堂大学)

**05-1 頭頸部疾患患者に対する病棟看護師とMSWによる退院支援の評価
～患者・看護師・MSWの三者比較から**

○三浦 慎太郎

藤田医科大学病院看護部

**05-2 協働的内省セッションによる特別養護老人ホームでの看取りケアの
リーダー実践意識の変化**○原沢 優子¹⁾、島田 千穂²⁾、伊東 美緒²⁾、平山 亮²⁾¹⁾名古屋市立大学看護学研究科、²⁾東京都健康長寿医療センター研究所**05-3 在宅ケア開始期におけるがん患者を受け持った訪問看護師と主治医との連携**

○武田 智美

椋山女学園大学

**05-4 独居者の在宅終末期におけるケア開始期と臨死期の利用者条件と
アウトカムの関連**○島内 節¹⁾、福田 由紀子²⁾、高畑 陽子³⁾¹⁾日本在宅ケア教育研究センター、²⁾人間環境大学大学院 看護学研究科、³⁾東京女子医科大学 看護学部

06-1 グリーフケアを目的とした利用者家族への交流会開催の取り組み

○佐藤 美保子¹⁾、櫛谷 雅子¹⁾

¹⁾ 社会医療法人 鶴谷会 訪問看護ステーションつるがや

06-2 海外論文から学ぶ米国のホスピスケア

○藤井 かし子

名古屋大学大学院医学系研究科 地域在宅看護学講座

06-3 ICU 看護師の End of Life Care における臨死期患者の Quality of Dying and Death に関する諸要因の特定

○新井 祐恵¹⁾、小笠原 知枝²⁾、對中 百合³⁾

¹⁾ 甲南女子大学看護リハビリテーション学部看護学科、²⁾ 人間環境大学大学院看護学研究科、

³⁾ 畿央大学健康科学部看護医療学科

06-4 一般病棟での End of Life Care における QOL・Quality of Dying and Death を高める看護実践能力に関する要因

○對中 百合¹⁾、小笠原 知枝²⁾、新井 祐恵³⁾

¹⁾ 畿央大学健康科学部看護医療学科、²⁾ 人間環境大学大学院看護学研究科、

³⁾ 甲南女子大学看護リハビリテーション学部看護学科

06-5 救命救急センターで DNAR (Do Not Attempt Resuscitation) を決断した遺族の要因

○石塚 紀美¹⁾、田中 真琴²⁾

¹⁾ 東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科 先端侵襲緩和ケア看護学分野 博士 (後期) 課程、

²⁾ 東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科 先端侵襲緩和ケア看護学分野

06-6 地域包括支援センターの死別サポートと地域特性に関する全国質問紙調査

○小野 若菜子¹⁾、永井 智子¹⁾

聖路加国際大学大学院看護学研究科

座長：島田 千穂 (東京都健康長寿医療センター)

A05-1 カテコラミン持続投与をしながら自宅退院した終末期心不全患者の一例

○石川 晴菜¹⁾、山田 真里奈¹⁾、植村 祐介²⁾、鈴木 真由美¹⁾

¹⁾JA 愛知厚生連 安城更生病院 看護部、²⁾JA 愛知厚生連 安城更生病院 循環器内科

A05-2 癌終末期における緩和ケアとしてのアロマセラピー —事例を通して—

○桑塚 恵子

医療法人聖恵会 福岡聖恵病院 聖恵ビハーラ (緩和ケア病棟)

A05-3 緩和ケアを考慮しつつも回復期リハ病棟から自宅退院を果たした重度心不全に大腿骨頸部骨折を合併した一例

○松尾 宏、近藤 和泉

国立長寿医療研究センター病院 リハビリテーション部

A05-4 全盲のご利用者が最後までデイサービスに通いたいという希望を叶えた事例

○瀬口 雄一郎

ノッポさんのデイサービス/株式会社クレセント

座長：浅見 洋 (石川県立看護大学)

A06-1 市民参加型活動 20 年余からみえた課題 ～ AD から ELC へ～

○岡 久美子

LMD 研究会東海支部 運営委員/日本福祉大学社会福祉学部 非常勤講師/
シニアライフ研究所 りあもでんな代表

**A06-2 薬局ができるアドバンスケアプランニングへの関わり
～薬剤服用歴管理記録簿 (薬歴) を活用して～**

○宇都宮 励子¹⁾、藤野 麻美²⁾、松村 直美²⁾、廣田 憲威³⁾

¹⁾一般社団法人大阪ファルマプラン あおば薬局、²⁾一般社団法人大阪ファルマプラン あおぞら薬局、

³⁾一般社団法人大阪ファルマプラン 本部

**A06-3 子どもに対する「いのちの授業」を用いた取り組みの効果と課題
—未来のエンドオブライフケアに繋ぐ—**

○中嶋 順子

医療法人秀麗会 やまお訪問看護ステーション

A06-4 高校生が考える終末期における代理決定の在り方

○増井 強¹⁾、杉浦 真²⁾

¹⁾愛知県立知立東高等学校、²⁾安城厚生病院脳神経外科

交流集会7

9月15日 C会場 13:10～14:10

p.83

EM7 オマハシステムを活用し、エンドオブライフケアを「見える化」しよう ～事例展開とIT化した日本語版オマハシステムを用いた実践の紹介～

企画者：社）オマハシステムジャパン理事：酒井 昌子、片山 陽子、岩本 大希、
藤野 泰平、吉江 悟、長江 弘子

交流集会8（ACPの普及啓発活動）

9月15日 C会場 14:20～15:20

p.84～

座長：杉浦 真（安城更生病院）

EM8-1 寸劇で取り組む ACP の普及啓発 ～愛知県安城市のボランティア劇団：劇団サルビー見守り隊の活動～

○河井 丈幸^{1,3)}、永井 知直実^{1,5)}、杉浦 真^{2,5)}、高橋 成行^{3,5)}、岡本 雅彦^{4,5)}

¹⁾一般社団法人安城市医師会、²⁾JA 愛知厚生連 安城更生病院 在宅医療連携推進センター、
³⁾介護タクシー えん、⁴⁾アイエムクリニック・安城、⁵⁾劇団サルビー見守り隊

EM8-2 訪問介護員（ヘルパー）とケアマネジャー等への ACP 啓発活動 ～研修会アンケートの分析結果より～

○河井 丈幸¹⁾、永井 知直実¹⁾、岡本 雅彦^{1,2)}

¹⁾一般社団法人安城市医師会、²⁾アイエムクリニック・安城

示説2群（B2-1～19）

9月15日 D会場 11:00～16:00

p.140～

B2-1 国内における予期悲嘆に関する研究の動向

○安藤 詳子¹⁾、小林 加奈²⁾

¹⁾名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻、²⁾名古屋大学医学部附属病院

B2-2 がん患者家族の死別後の悲嘆に関する国内看護研究の動向

○安藤 詳子¹⁾、小林 咲²⁾

¹⁾名古屋大学大学院医学系研究科看護学専攻、²⁾名古屋大学医学部附属病院

B2-3 在宅ケアサービス・アウトカム評価ツール「QOLABO（コラボ）」の開発過程

○穴田 幸雄

株式会社コンダクト

C
会
場

D
会
場

B2-4 包括的 BPSD ケアシステムの開発

○内田 陽子
群馬大学大学院保健学研究科

B2-5 地域中核病院と周辺地域の医療関係者が認識している「エンドオブライフケアを実践するうえでの課題」

○小柳 貴子
社会医療法人財団大和会 武蔵村山病院

**B2-6 独居者の在宅での看取りに関わった介護ヘルパーの困難感や葛藤
－「介護を振り返る語り」からヘルパーへの支援を考える－**

○武田 智美¹⁾、鈴木 純子²⁾、福田 由紀子³⁾、杉浦 美佐子¹⁾
¹⁾ 椛山女学園大学、²⁾ 前名古屋市長養サービス事業団、³⁾ 人間環境大学大学院博士後期課程

B2-7 循環器専門病院の認定看護師が行う心不全患者へのアドバンス・ケア・プランニング

○名越 恵美¹⁾、永野 範子²⁾、松本 梢²⁾
¹⁾ 岡山県立大学 保健福祉学部 看護学科、²⁾ 心臓病センター榊原病院

B2-8 高齢者向け住まい施設の管理者の語りから明らかになった看取りケアの課題

○小澤 美和¹⁾、内野 聖子²⁾、後藤 雪絵³⁾、伊藤 亜希子¹⁾、山本 里美¹⁾、加藤 隆¹⁾
¹⁾ 名寄市立大学保健福祉学部、²⁾ 岐阜医療科学大学看護学部、³⁾ 松蔭大学看護学部

B2-9 EOLD 日本語版の信頼性と妥当性の検証

○戸谷 幸佳^{1,2)}、内田 陽子¹⁾、山崎 恒夫¹⁾、山口晴保³⁾、川島 智幸¹⁾、斎藤 知之⁴⁾、千葉 悠平⁴⁾、高井 ゆかり²⁾
¹⁾ 群馬大学大学院保健学研究科、²⁾ 群馬県立県民健康科学大学看護学部看護学科、³⁾ 認知症介護研究・研修東京センター、⁴⁾ 横浜市立大学医学部精神医学教室

B2-10 緩和ケア病棟入院患者における排泄行動に関連した転倒転落の現状

○木村 あかり、高倉 梢、祖父江 正代
JA 愛知厚生連 江南厚生病院 緩和ケアセンター

B2-11 終末期における在宅看取りを可能にする支援と要因に関する文献検討

○田村 理紗
元人間環境大学看護学部

**B2-12 終末期がん患者の状態から見た緩和ケア病棟への適切な移行時期
－緩和ケア病棟看護師の認識より－**

○奥村 茂夫
人間環境大学 看護学部 看護学科

- B2-13 特別養護老人ホームにおける看取りケアに関する文献検討
～研究対象者の変化から今後の課題を検討する～**
○岩淵 起江
東京医療保健大学東が丘・立川看護学部
- B2-14 在宅ケア開始期における訪問看護サービス新規契約者の初回緊急ニーズの
関連要因**
○福田 由紀子¹⁾、島内 節²⁾、市川 誠一³⁾、又吉 忍⁴⁾、竹内 貴子⁵⁾、神谷 智子⁶⁾、
杉浦 美佐子⁴⁾、藤原 奈佳子¹⁾
¹⁾ 人間環境大学 大学院看護学研究科、²⁾ 在宅ケア教育研究センター、³⁾ 金城学園大学
⁴⁾ 椋山女学園大学、⁵⁾ 日本赤十字豊田看護大学、⁶⁾ 名古屋学芸大学
- B2-15 エンド・オブ・ライフケアチームによる症状緩和、倫理サポート、退院支援**
○西川 満則
国立長寿医療研究センター緩和ケア診療部
- B2-16 市民と専門職で協働する日本型対話促進 ACP 介入モデルプログラム
：インタビューによるプログラム評価**
○岩崎 孝子¹⁾、加藤 裕規²⁾、高橋 在也³⁾、坂井 志麻⁴⁾、原沢 のぞみ¹⁾、川原 美紀¹⁾、
田村 恵子²⁾、長江 弘子¹⁾
¹⁾ 東京女子医科大学看護学部、²⁾ 京都大学大学院医学系研究科、³⁾ 千葉大学大学院看護学研究科、
⁴⁾ 杏林大学保健学部看護学科
- B2-17 STAS-J 評価を用いた患者と家族の不安およびコミュニケーションが処方に与
える影響についての調査**
○溝神 文博¹⁾、高嶋 理穂^{1,2)}、高梨 早苗²⁾、飯塚 祐美子²⁾、小島 秀樹²⁾、西川 満則²⁾
¹⁾ 国立長寿医療研究センター薬剤部、²⁾ 国立長寿医療研究センター EOL ケアチーム
- B2-18 当院における透析非導入希望の患者への意思決定支援の取り組み**
○岡田 絵里、今澤 俊之
国立病院機構千葉東病院腎臓内科
- B2-19 終末期における人工呼吸器装着の選択が患者・家族の看取りの過程、死の受容
へ与えた影響について**
○山田 案美加、千葉 恵子、足立 智孝、松尾 ミヨ子
学校法人鉄蕉館 亀田医療大学 看護学部

p.150~

- B2-20 急性期病棟看護師が実践可能なACPの検討
—治療選択に困難を抱えたがん患者の一事例より—**
○鳥海 幸恵
川崎市立川崎病院
- B2-21 がん患者の退院支援における病棟看護師の役割
—事例からみえてきたことを踏まえて—**
○新谷 祐里¹⁾、河合 純子¹⁾、森元 多恵¹⁾、山本 千香子¹⁾、黒川 晴代¹⁾、彦 聖美²⁾
¹⁾医療法人社団 和楽仁 芳珠記念病院、²⁾金城大学看護学部看護学科
- B2-22 家族との絆を大切にした終末期がん療養者のエンド・オブ・ライフケアを
振り返る**
○三浦 雅美¹⁾、片山 陽子²⁾
¹⁾済生会松山訪問看護ステーション、²⁾香川県立保健医療大学保健医療学部看護学科
- B2-23 癌末期で内服困難となった患者に対する薬剤師の支援**
○田中 聖二¹⁾、大野 貴也²⁾
¹⁾あいち調剤薬局平戸橋駅前店、²⁾ブライト調剤薬局三崎店
- B2-24 クロイツフェルト・ヤコブ病療養者の家族の代理意思決定と意思実現への支援**
○矢野 優子¹⁾、三浦 雅美¹⁾、片山 陽子²⁾
¹⁾済生会松山訪問看護ステーション、²⁾香川県立保健医療大学 保健医療学部
- B2-25 末期心不全患者における病病連携の障壁
—高齢末期心不全患者の転院後再入院を振り返って—**
○吉廻 みゆき、伊藤 真理、難波 由美子
川崎医科大学総合医療センター 看護部
- B2-26 維持透析を自らの意思で継続中止した事例**
○新川 実穂、足立 智孝
亀田医療大学看護学部
- B2-27 特別養護老人ホームでのミールラウンドにおけるの人生会議
(エンドオブライフディスカッション)**
○石田 加代子
社会福祉法人福寿 特別養護老人ホーム さわやかなの郷

B2-28 治療を中断して転院を望む本人と治療継続を推奨する医療スタッフの倫理的ジレンマの一考察

○長坂 真弓

公益財団法人日産厚生会 玉川病院 患者サポートセンター

B2-29 老人保健施設における看取りの事例

○伊藤 光江

社会福祉法人愛光園 介護老人保健施設相生

B2-30 在宅慢性閉塞性肺疾患療養者に対する家族介護者のエンドオブライフケア

○永井 千治

元北海道職員

**B2-31 集中治療領域において呼吸不全を来した患者のエンドオブライフケア
—患者主体の治療を目指すため、本人の意思決定を支えた事例—**

○宮崎 博士

札幌市病院局市立札幌病院 救命救急センター

B2-32 看取り期に家族関係の課題に直面し、その調整に難渋した一事例

○橋野 陽子¹⁾、加治佐 直子¹⁾、金井 菜穂子¹⁾、岡本 禎晃¹⁾、松田 良信¹⁾、片山 陽子²⁾

¹⁾市立芦屋病院、²⁾香川県立保健医療大学保健医療学部看護学

**B2-33 パーキンソン病のため意思表示が困難であった女性のエンド・オブ・ライフケア
～自分らしく生き抜いた最期～**

○太田 英里¹⁾、豊田 吉江²⁾、西川 満則³⁾

¹⁾あいち調剤、²⁾社会福祉法人福寿 特別養護老人ホーム さわやかなの郷、³⁾国立長寿医療研究センター

**B2-34 脳出血により意思疎通困難な独居患者への多職種カンファレンスによる
意思決定支援**

○米山 亨

JA 愛知厚生連江南厚生病院

B2-35 介護 BK ラボの HAPPY 介護士の活動から介護の仕事を伝えるために

○中野 公平、保科 和美

介護BKラボ

**B2-36 急性期病院におけるアドバンス・ケア・プランニング普及の取り組み
～事前指示書の作成と話し合いの実態～**

○根岸 恵、小島 弘恵、山本 伊織、塩川 満、大内 基史

聖隷横浜病院 ACP ワーキンググループ

B2-37 地域での在宅看取りについて、お手紙・パンフレットの効果

○水上 幸子
地域包括ケアセンターいぶき

B2-38 婦人科がん術後患者へのリンパ浮腫予防のセルフマネジメント支援に対する患者の思い

○佐藤 真由美
国際医療福祉大学大学院

委員会企画 意思表明

9月15日 F会場 9:30～11:20

p.49

座長：長江 弘子（東京女子医科大学）

意思表明プロセス委員会セミナー

CP-4 自分に立ち戻り、自分の人生で何が大切かを考えられる場所 ～病院でも在宅でもないマギーズ東京からの視点～

○岩城 典子¹⁾、海津 未希子²⁾、杉山 ひろみ³⁾、山本 康太⁴⁾

¹⁾ 認定 NPO 法人マギーズ東京、
²⁾ ①みその生活支援クリニック②慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科後期博士課程、
³⁾ マギーズ東京来訪者、⁴⁾ マギーズ東京来訪者（東京ベイ・浦安市川医療センター）

交流集会4（市民・多職種のための参加型ワークショップの経験から学ぶ）

9月15日 F会場 12:10～12:50

p.76～

座長：片山 陽子（香川県立保健医療大学）

EM4-1 「自分らしい人生の旅立ちと看取りを考えるセミナー」の 開催：2017－2019年 in 東京

○小野 若菜子¹⁾、亀井 智子¹⁾、川上 千春¹⁾、高橋 在也²⁾、浅見 洋³⁾、志藤 洋子⁴⁾、
大島 眞理子⁵⁾、彦 聖美⁶⁾、近藤 則子⁷⁾、関谷 昇²⁾
（日本エンドオブライフケア学会市民と専門職が協働するための実践・教育・研究委員会委員）

¹⁾ 聖路加国際大学、²⁾ 千葉大学、³⁾ 石川県立看護大学、⁴⁾ 日本在宅ケアアライアンス事務局、
⁵⁾ 老テク研究会、⁶⁾ 金城大学、⁷⁾ NPO ブロードバンド協会

EM4-2 ACP が地域に普及するために～市民講座における啓発の在り方～

○内田 恵美
訪問看護ステーションソレイユ

EM4-3 エンドオブライフケア普及における取組の現状と課題① ～参加しやすい研修会の開催を試みて～

○永井 知直実¹⁾、杉浦 真²⁾、河井 丈幸¹⁾
¹⁾ 一般社団法人安城市医師会 安城市在宅医療サポートセンター、
²⁾ JA 愛知厚生連安城更生病院脳神経内科

E
会場

F
会場

EM4-4 エンドオブライフケア普及における取組の現状と課題② ～研修会アンケート結果より～

○永井 知直¹⁾、杉浦 真²⁾、河井 丈幸¹⁾

¹⁾一般社団法人安城市医師会 安城市在宅医療サポートセンター、

²⁾JA 愛知厚生連安城更生病院脳神経内科

交流集会5 (諸外国のACPに触れ、日本のACPを見つめなおす)

9月15日 F会場 13:00～13:30

p.80～

座長：高橋 在也 (千葉大学)

EM5-1 オーストラリア在住日本人の目に映る、豪州 ACP の取り組み

○内藤 由美

フレインダース大学

EM5-2 介護ヘルパーによる ACP 実践の可能性と台湾における ACP 現況、Ending Note のなかの ACP

○内藤 美暁¹⁾、蕭 惠心²⁾、戸田 暁子³⁾

¹⁾愛知県医療通訳、(株) ツクイスタッフ、²⁾(株) やさしい手 Recruit サービス提供責任者、

³⁾行政書士

交流集会6 (余命半年の当事者の世界を聴く)

9月15日 F会場 13:40～14:10

p.82

座長：内田 陽子 (群馬大学大学院)

EM6 終末期にある当事者のありのままの思いとエンドオブライフケアを考える —治療をしない選択をし、余命半年の当事者の世界—

○田島 玲子¹⁾、堀澤 晴成²⁾

¹⁾グループホームあかつき訪問看護ステーション、

²⁾有限会社相模テクノグループホームあかつき

市民公開講座

9月15日 F会場 14:20～15:50

p.70

市民と専門職が協働するための実践・教育・研究委員会

市民公開講座 自分らしい人生の旅立ち・看取りを考える集い ～市民と医療職のまなざしが交わる～

○プロデュース：西村 高宏¹⁾、近田 真美子²⁾、高橋 在也³⁾

¹⁾福井大学医学部国際社会医学講座 准教授 (てつがくカフェ「医療とケアを問い直す」)

²⁾福井医療大学保健医療学部看護学科 准教授 (てつがくカフェ「医療とケアを問い直す」)

³⁾千葉大学大学院看護学研究科 特任研究員

企画実行委員・実行委員一覧

企画実行委員・実行委員一覧

日本エンドオブライフケア学会第3回学術集会を開催するにあたり、皆様よりご支援・ご尽力を賜りました。ここに深甚たる感謝の意を表します。

2019年9月2日現在
日本エンドオブライフケア学会第3回学術集会
学術集会長 西川 満則

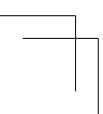
企画実行委員	浅見 洋	石川県立看護大学
企画実行委員	足立 智孝	亀田医療大学
企画実行委員	天野 米香	安城更生病院
企画実行委員	伊東美沙江	川崎医療福祉大学
企画実行委員	岩城 典子	認定NPO法人マギーズ東京
企画実行委員	大島真理子	老テク研究会
企画実行委員	大城 京子	快護相談所 和び咲び
企画実行委員	大橋 純子	名古屋徳洲会総合病院
企画実行委員	小笠原知枝	人間環境大学
企画実行委員	加藤亜妃子	人間環境大学
企画実行委員	久米弥寿子	武庫川女子大学
企画実行委員	小森 栄作	ももたろう往診クリニック
企画実行委員	坂井 志麻	杏林大学
企画実行委員	坂本 雅樹	名古屋徳洲会総合病院
企画実行委員	柴垣 景子	社会福祉法人 檸檬 (れもん)
企画実行委員	島田 千穂	東京都健康長寿医療センター
企画実行委員	島内 節	日本在宅ケア教育研究センター
実行委員長	杉浦 真	安城更生病院
企画実行委員	杉浦美佐子	椙山女学園大学
企画実行委員	鈴木奈緒美	有限会社 レモン介護サービス
企画実行委員	瀬口雄一郎	株式会社 クレセント
企画実行委員	高橋 在也	千葉大学
企画実行委員	谷垣 静子	岡山大学
企画実行委員	鶴若 麻理	聖路加国際大学
企画実行委員	長江 弘子	東京女子医科大学
実行委員長	長江 浩幸	総合病院南生協病院
学術集会長	西川 満則	国立長寿医療研究センター
企画実行委員	野田 智子	江南厚生病院
企画実行委員	長谷川智子	福井大学
企画実行委員	原沢のぞみ	東京女子医科大学
企画実行委員	平原佐斗司	梶原診療所
企画実行委員	福田由紀子	人間環境大学
副学術集会長	三浦 昌子	名古屋大学医学部附属病院
企画実行委員	葉袋 淳子	岐阜医療科学大学
企画実行委員	山本 純子	大手前大学
企画実行委員	横江由理子	いきいき在宅クリニック
企画実行委員	吉岡さおり	京都府立医科大学

企画実行委員 (五十音順)

実行委員	秋山 正子	兵庫大学
実行委員	浅見美千江	石川県立看護大学
実行委員	新井 祐恵	甲南女子大学
実行委員	石田加代子	特別養護老人ホームさわやかなの郷

実行委員	伊藤 真理	川崎医科大学総合医療センター
実行委員	伊藤 裕子	名古屋徳洲会総合病院
実行委員	岩崎 孝子	東京女子医科大学
実行委員	榎田 恵子	岐阜保健大学
実行委員	内田 美貴	NPO 法人 地域診療情報連携協議会
実行委員	内田 陽子	群馬大学大学院保健学研究科
実行委員	江坂 美保	京都府立医科大学大学院
実行委員	大橋 純子	名古屋徳洲会総合病院
実行委員	岡田 麻里	県立広島大学
実行委員	小川奈津子	公立西知多総合病院
実行委員	奥村 茂夫	人間環境大学
実行委員	片山 陽子	香川県立保健医療大学
実行委員	神谷 智子	名古屋学芸大学
実行委員	川上 友美	藤田医科大学
実行委員	川添恵理子	北海道医療大学
実行委員	川添 紀子	東京女子医科大学病院
実行委員	金城 芽里	千葉大学大学院
実行委員	小池 愛弓	元東京女子医科大学
実行委員	高 紋子	東京女子医科大学
実行委員	小島 朗	大原総合病院
実行委員	酒井 昌子	聖隷クリストファー大学
実行委員	坂本 雅樹	名古屋徳洲会総合病院
実行委員	對中 百合	畿央大学
実行委員	竹内 貴子	日本赤十字豊田看護大学
実行委員	高山 英子	東京女子医科大学
実行委員	武田 智美	椋山女学園大学
実行委員	田島真知子	岐阜聖徳学園大学
実行委員	田中 克恵	金城大学
実行委員	田中 聖二	あいち調剤薬局
実行委員	千葉 恵子	東京女子医科大学
実行委員	照井 レナ	元旭川医科大学
実行委員	戸谷 幸佳	群馬県立県民健康科学大学
実行委員	長坂 眞弓	東京女子医科大学
実行委員	中村 円	札幌医科大学
実行委員	永山 弘子	人間環境大学
実行委員	那須 真弓	茨城県医療福祉大学
実行委員	梨木恵実子	群馬大学大学院保健学研究科
実行委員	新川 実穂	亀田医療大学
実行委員	乗越 千枝	梅花女子大学
実行委員	橋本 容子	福井大学
実行委員	林 容子	人間環境大学
実行委員	原沢のぞみ	東京女子医科大学
実行委員	福澤 大樹	岐阜医療科学大学
実行委員	福島 昌子	群馬県立県民健康科学大学
実行委員	船戸 恵子	岐阜医療科学大学
実行委員	又吉 忍	椋山女学園大学
実行委員	松井 遊香	名古屋徳洲会総合病院
実行委員	三浦慎太郎	藤田医科大学
実行委員	山崎 千草	東京女子医科大学病院
実行委員	山田案美加	亀田医療大学

実行委員（五十音順）



共催・協賛企業一覧

共催・協賛企業一覧

日本エンド オブ ライフ ケア学会第3回学術集会を開催するにあたり、皆様よりご協賛を賜りました。ここに深甚たる感謝の意を表します。

2019年9月2日 現在
日本エンド オブ ライフ ケア学会第3回学術集会
学術集会長 西川 満則

【共催】

公益財団法人在宅医療助成 勇美記念財団

【開催助成】

公益財団法人昭和大学 医療振興財団
公益財団法人大幸財団

【寄付】

愛知県老人福祉施設協議会
株式会社エバ
スガキコシステムズ株式会社

【ランチョンセミナー】

帝人ファーマ株式会社
株式会社ジョイライフ

【広告協賛】

ヌーヴェルヒロカワ
株式会社 全日本病院出版会
株式会社 南山堂
株式会社じほう
医歯薬出版 株式会社
武田製薬工業 株式会社
金原出版 株式会社
株式会社 八神製作所
ニプロ 株式会社
フクダライフテック中部 株式会社
エーザイ 株式会社
株式会社 クレセント
株式会社 永大企画

【出展】

株式会社 紀伊國屋書店
太陽日酸 株式会社 中部支社
東洋羽毛東海販売 株式会社
アボットジャパン東海支店
株式会社 日総研出版
株式会社 ヤマト
株式会社 大塚製薬工場

帝人ファーマ 株式会社
株式会社 ニホン・ミック
株式会社 ジョイライフ
ネスレ日本 株式会社 ネスレヘルスサイエンスカンパニー

【介護系協賛】

愛知県老人福祉施設協議会
愛知県介護支援専門員協会
公益財団法人 愛知県シルバーサービス振興会
一般社団法人 愛知県居宅介護支援事業者連絡協議会
社会福祉法人 全国社会福祉協議会 全国ホームヘルパー協議会
一般社団法人 愛知県老人保健施設協会
名古屋市老人 福祉施設協議会
特定非営利活動法人 静岡県介護支援専門員協会
一般社団法人 三重県介護支援専門員協会
特定非営利活動法人 岐阜県居宅介護支援事業協議会
社会福祉法人 檸檬
有限会社 レモン介護サービス
株式会社 クレセント

【後援団体】

一般社団法人 愛知県社会福祉士会
一般社団法人 愛知県介護福祉士会
社会福祉法人 愛知県社会福祉協議会
一般社団法人 愛知県医療ソーシャルワーカー協会
公益社団法人 愛知看護協会
一般社団法人 愛知県作業療法士会
公益社団法人 愛知県医師会
一般社団法人 愛知県薬剤師会
公益社団法人 愛知県栄養士会
公益社団法人 東京社会福祉士会
公益社団法人 東京都介護福祉士会
一般社団法人 東京都医療社会事業協会
公益社団法人 東京都医師会
公益社団法人 東京都薬剤師会
公益社団法人 東京都栄養士会
公益社団法人 東京都歯科衛生士会
公益社団法人 栃木県看護協会
公益社団法人 千葉県看護協会
公益社団法人 岡山県看護協会
公益社団法人 埼玉県看護協会
公益社団法人 愛媛県看護協会
公益社団法人 秋田県看護協会
公益社団法人 福岡県看護協会
公益社団法人 北海道看護協会
NPO 法人 生と死を考える会

日本エンドオブライフケア学会 第4回学術集会開催にあたって

名 称：日本エンドオブライフケア学会 第4回学術集会

学術集会長：小森 栄作（ももたろう往診クリニック）

メインテーマ：多職種で支えるエンドオブライフケア

～よりよいコミュニケーションをめざして～

会 期：2020年9月12日（土）～9月13日（日）

会 場：川崎医療福祉大学（岡山県倉敷市松島）

開催趣旨

2020年9月12日・13日に岡山県倉敷市・川崎医療福祉大学において第4回学術集会を開催いたします。超高齢化社会の時代を迎える中で、我々医療や介護を担う者は地域包括ケアシステムの構築を通して地域社会を支えるという重要な役割を担うこととなります。その実践の中でアドバンス・ケア・プランニング（ACP）の重要性については誰もが認識するところであり、様々な取り組みによって次第に広がりつつあることを感じます。

これまでがACPの必要性の理解の段階であったとすれば、これからは更に一歩進んで、ACPの実践上どのような課題が待ち受けていてどのように解決してゆくのか、といった次のステージへと踏み出さねばなりません。同時にACPについての議論の場も、病院や大学などの限られたフィールドの中から飛び出して、本来の患者さんの日々の生活の場へと広げてゆく段階に来ていると思います。患者さんは地域での「生活者」であることから、病院だけでなく在宅や施設といった生活環境においては、ACPの実現には医療職のみならず介護職や行政、福祉ほか、生活に関わる数多くの職種の協力が必要になってきます。ACPの質的向上とともに、裾野の拡大が必要です。

そこで、大会のテーマは『「多職種で支えるエンドオブライフケア」～よりよいコミュニケーションをめざして～』としました。

多職種で1人の患者さんを取り巻いて支えてゆくために必要なことの1つは「よりよいコミュニケーション」にあると考えます。患者さんとのかかわりのなかでどれだけ情報が得られ、その人を理解してあげられるか。病や衰弱の進行など変わりゆく自らの身体状況に対する不安、それまでの人生での生き方やこだわり、残される人々への思いや気がかり心配など、患者さんの生活に根ざしたスピリチュアルな部分への関わりも重要となるでしょう。多職種のスタッフとの間での会話や、共に過ごす時間によって変化が起こり、お互いに影響を与えながら意思決定を支援しその実現に向かってゆく。そのためによりよい意思疎通・コミュニケーションが欠かせません。

高齢者をとりまくACPの問題・課題など、現場での取り組みで苦勞している在宅スタッフの苦勞を病院や大学の立場でどうシェアしてゆくか。在院日数が短縮化されるなか、病院でのACPの課題が退院して在宅や施設に帰ったときにうまく在宅や施設のスタッフに引き継がれるかどうか。意思決定をしたくない人に無理にACPを強いることなく、自ら意思表示したくなるようにもってゆくにはどうすれば良いか。ACPさえ表明されていれば問題はないのか、果たしてその通りに実現されるのか。このような課題の解決のために、多職種でのアプローチ、また多職種スタッフ同士の連携・コミュニケーションが重要です。

集会での講演や発表などで多くの知見を得たり貴重な経験をシェアしたりして、エンドオブライフケアに関わるなかで“この仕事でよかった”“一緒に関わって良かった”と喜びを感じられるような、そんな機会となることを願っています。

これまでの学術大会は東京・名古屋と大都市圏での開催でしたが、第4回は岡山県倉敷市という地方都市での初めての開催となります。

皆様の御参加をお待ちしています。

日本エンドオブライフケア学会 第3回学術集会

2019年9月2日 印刷

2019年9月5日 発行

発行者：一般社団法人 日本エンドオブライフケア学会
編集者：日本エンドオブライフケア学会 第3回学術集会事務局

発行所：有限会社レモン介護サービス
〒476-0003 愛知県東海市荒尾町福田地2番1
TEL：052-689-7877 / FAX：052-689-3533

編集・印刷：株式会社永大企画
〒453-0838 愛知県名古屋市中村区向島町3丁目7-1
TEL：052-880-0224 / FAX：052-880-0390



hvc
human health care



患者様の想いを見つめて、 薬は生まれる。

顕微鏡を覗く日も、薬をお届けする日も、見つめています。
病気とたたかう人の、言葉にできない痛みや不安。生きることへの希望。
私たちは、医師のように普段からお会いすることはできませんが、
そのぶん、患者様の想いにまっすぐ向き合いたいと思います。
治療を続けるその人を、勇気づける存在であるために。
病気を見つめるだけでなく、想いを見つめて、薬は生まれる。
「ヒューマン・ヘルスケア」。それが、私たちの原点です。

ヒューマン・ヘルスケア企業 エーザイ



エーザイはWHOのリンパ系フィラリア病制圧活動を支援しています。

ケース
スタディで
学ぶ

がん患者 ロジカル・トータルサポート

患者との会話から症状を読み取り処方提案しよう！

監修 片山 志郎・平井 みどり 編著 高瀬 久光・井手口 直子

定価(本体3,200円+税) / A5判 / 346頁 / 2017年5月刊 / ISBN:978-4-8407-4825-4



本書は、ロジカル・トータルサポートの指南書であり、患者とのコミュニケーションを通じて患者の病状に応じた論理的かつリスクマネジメントにつなげる「先読み臨床力」を身につけるためのヒントとなります。

ケーススタディを通じて患者の状態をロジカルに読み解き、その知見をもとに処方設計を行って医師・看護師とのカンファレンスで薬学的な視点で提案するまでを解説します。

株式会社 じほう
<https://www.jiho.co.jp/>

〒101-8421 東京都千代田区神田猿樂町1-5-15 猿樂町SSビル TEL 03-3233-6333 FAX 0120-657-769
〒541-0044 大阪府中央区伏見町2-1-1 三井住友銀行高麗橋ビル TEL 06-6231-7061 FAX 0120-189-015

高齢者ケアのキーノート

いつもと違う 高齢者をみたら **第2版**

在宅・介護施設での判断と対応

荒井千明 著
B5判 140頁 定価(本体2,600円+税)
ISBN978-4-263-23707-6

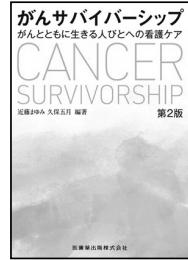


高齢者ケアにかかわるすべてのスタッフと家族のための対応
手引き待望の第2版。改訂では、介護現場のニーズにこたえ、
“いつもと違う”と気づいた時の初動対応における確認事項や
終末期の意思確認、看取り対応等を新たに収載。

がん サバイバーシップ **第2版**

がんとともに生きる人びとへの看護ケア

近藤まゆみ・久保五月 編著
B5判 212頁 定価(本体3,800円+税)
ISBN978-4-263-23722-9



初版発行から10年間の知見を盛り込むとともに、〈就労支援〉
〈妊孕性へのケア〉〈AYA(思春期・若年成人期)世代へのケア〉
などのトピックスをあらたに収載。がんと向き合うサバイバーや
家族の体験を理解し、支援する上で必須の一冊！

生活と医療を統合する

継続看護 マネジメント **第2版**

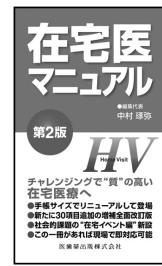
長江弘子 編著
B5判 124頁 定価(本体2,600円+税)
ISBN978-4-263-23705-2



退院支援や在宅移行支援における看護師の取り組みそのもの
ではなく、「看護師は何のために退院支援をするのか」という
本質を問うことから生まれた好評テキストの改訂版！ 人生
100年時代、地域包括ケア時代に必携の一冊！

在宅医 マニュアル **第2版**

中村琢弥 編集代表
A6判変 832頁 定価(本体5,900円+税)
ISBN978-4-263-73190-1



現場での対応がすぐにわかる！ポケットサイズの実践マニュアル
が増補全面改訂！「非がん疾患の緩和ケア」「ACP」などの
多様化する在宅医療のニーズに合わせて内容を充実！ 社会的
課題への対応を記した“在宅イベント編”を新設！

医歯薬出版株式会社 ☎113-8612 東京都文京区本駒込1-7-10 TEL03-5395-7610 FAX03-5395-7611 <https://www.ishiyaku.co.jp/>

婦人科がんの特化した緩和ケアの実践書、登場！

婦人科 **今すぐ始めたい** がん領域における 緩和医療の実践

編集 鈴木直 / 藤村正樹 / 宮城悦子 / 東口高志



患者の苦痛緩和のために、がん治療の早期から提供される必要がある緩和ケア。なかでも婦人科がん(子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん)は、妊孕性や女性ならではの感情などに大きく関わる特殊な領域といえる。本書は婦人科がんにおける緩和医療の役割や緩和ケアの実践について、婦人科がん治療医と緩和ケア医が共同で執筆。臨床現場に則したケースレポートも収載している。婦人科がんに関わる医療スタッフに役立つ一冊。

主な内容 婦人科がんと緩和医療 婦人科がんの基礎知識 各症状への対応 治療 症例呈示

Column 緩和医療における臨床試験の現状 緩和ケアチームと婦人科がん Rapid onset opioid (ROO) ほか

読者対象 婦人科腫瘍に関わる産婦人科医、看護師

◆B5判 352頁 83図 カラー9図 ◆定価(本体6,400円+税) ISBN978-4-307-30130-5

金原出版

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL03-3811-7184(営業部直通) FAX03-3813-0288

本の詳細、ご注文等はこちらから <http://www.kanehara-shuppan.co.jp/>



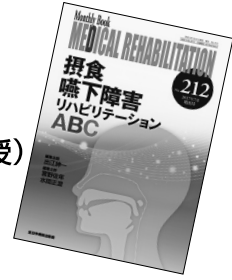
2017・4

摂食嚥下障害リハビリテーションABC

＜編集＞出江紳一(東北大学大学院医工学研究科リハビリテーション医工学分野教授)

B5判 246頁 定価4,980円+税

臨床現場に欠かせない摂食嚥下障害リハビリテーションを、総論・各論形式で解説！
基礎から応用、論文の読み方まで、知っておきたい知識を詰め込みました。
初学者からベテランまで、お役立ていただける一冊です！



I. 総論		7. 介入	
1. 構造と機能		1) 間接訓練のエビデンスをめぐって……熊倉 勇美	
1) 咀嚼の生理学……井上 誠		2) 直接訓練の方法と現時点でのエビデンス……清水 充子	
2) 咽頭期における舌骨・喉頭運動……加賀谷 斉		3) 口腔内装置……野原 幹司	
3) 喉頭閉鎖のメカニズム……稲本 陽子		4) 嚥下障害に対する手術法とその適応……香取 幸夫	
4) 咽頭筋の収縮と食道入口部の弛緩……中尾 真理ほか		5) 口腔衛生の意義と方法……角 保徳	
5) 延髄の嚥下中枢と central pattern generator……杉山 庸一郎		8. 栄養と食餌	
6) 大脳の役割と可塑性……山脇 正永		1) 栄養管理と経腸栄養……伊藤 彰博ほか	
2. プロセスモデルを考慮した摂食嚥下リハビリテーション……松尾 浩一郎		2) 嚥下調整食の基準と使い方……藤谷 順子	
3. 在宅における食支援……菊谷 武ほか		II. 各論	
4. 診療報酬と介護報酬……小野木 啓子		1. 脳卒中……馬場 尊ほか	
5. 評価		2. パーキンソン病……山本 敏之	
1) 患者診察のポイント……國枝 顕二郎ほか		3. 筋ジストロフィーと摂食嚥下障害……野崎 園子	
2) スクリーニング検査……中山 潤利		4. 老嚥(presbyphagia)……倉智 雅子	
3) 重症度分類の使い分け……大野 友久		5. 小児の摂食嚥下障害……田角 勝	
6. 検査		6. 口腔がん……鄭 漢忠	
1) VFの標準的手段と観察のポイント……柴田 斉子		7. 頭頸部がん	
2) VEの標準的手段と観察のポイント……太田 喜久夫ほか		一病態に応じたリハビリテーション……藤本 保志	
3) マノメトリーでわかること……青柳 陽一郎ほか		8. 誤嚥性肺炎のリハビリテーション……谷口 洋ほか	
4) 超音波検査でわかること……清水 五弥子ほか		9. サルコペニア……若林 秀隆	
5) 頸部聴診でわかること……高橋 浩二		研究を読み解くために	
		摂食嚥下リハビリテーション研究で使われる統計解析の読み方……海老原 覚ほか	

(株)全日本病院出版会

〒113-0033 東京都文京区本郷3-16-4
TEL: 03-5689-5989 FAX: 03-5689-8030



合意形成に王道なし。41の事例から、その道のりを追体験！

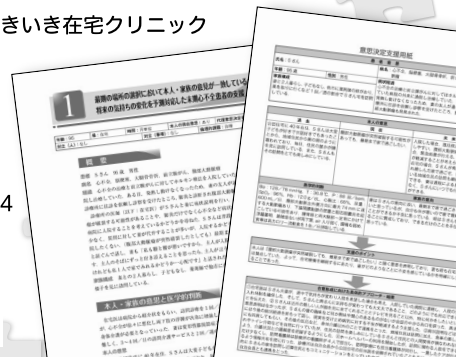
治療を巡る意思決定を支援する際、認知症や家族内の意向対立といった問題で悩んだ経験はないだろうか？本書では、40以上の事例を厚労省の「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」に準拠しつつ、本人の意思を現在・過去・未来の3つの時間軸でとらえて整理した。皆はどうしているのだろうか？がわかる一冊。

編集 西川満則 国立長寿医療研究センター病院
長江弘子 東京女子医科大学看護学部
横江由理子 いきいき在宅クリニック

- B5判 229頁
- 定価(本体2,700円+税)
- ISBN 978-4-525-50021-4
- 2016年12月発行



詳しくはWebで



南山堂

〒113-0034 東京都文京区湯島4-1-11
TEL 03-5689-7855 FAX 03-5689-7857(営業)

URL <http://www.nanzando.com>
E-mail eigyo_bu@nanzando.com



歴史に学び
今を考え
未来につなぐ

明治4年(1871年)の創業以来、
医療・介護・保健に関わる事業を営みながら、
いち早く予防医療・健康開発にも取り組むなど
常に先進の活動に努めてまいりました。
これからも、人のいのちに携わる企業として
社会的責任を果たしてまいります。

医療機器 福祉用具 健康開発機器

株式会社 八神製作所

〒460-8318 名古屋市中区千代田二丁目16番30号TEL. 052-251-6671 (代)

www.yagami.co.jp



Better Health, Brighter Future

タケダから、世界中の人々へ。より健やかで輝かしい明日を。

一人でも多くの人に、かけがえのない人生をより健やかに過ごしてほしい。タケダは、そんな想いのもと、1781年の創業以来、革新的な医薬品の創出を通じて社会とともに歩み続けてきました。

私たちは今、世界のさまざまな国や地域で、予防から支援活動にわたる多様な医療ニーズと向き合っています。その一つひとつに添えていくことが、私たちの新たな使命。よりよい医薬品を待ち望んでいる人々に、少しでも早くお届けする。それが、いつまでも変わらない私たちの信念。

世界中の英知を集めて、タケダはこれからも全力で、医療の未来を切り拓いていきます。

武田薬品工業株式会社
www.takeda.com/jp



NIPRO

加圧式医薬品注入器

シュアーフューザー® A

自動ロック解除型PCAセット



医療機器承認番号 201006Z200452000

特長

- **安心感を与えるボラス投与の簡単操作**
「カチッ」と押ししてロックするだけで、ボラス投与から薬液補充まで自動で行い、補充の目視確認もできます。
- **プライミングの操作性を向上**
プライミング用ポートを抜けることにより、PCA装置へのプライミングを容易にしました。
- **安定した持続注入**
高い注入圧と体温を利用することにより、安定した持続注入が可能です。
- **さまざまな鎮痛療法に対応した品揃え**
3種類のボラス投与量・2種類のロックアウトタイムと持続投与量を組み合わせ16種類の品揃えを用意しています。

（有価証券） 製造販売
ニプロ株式会社
大阪府北摂本庄西3丁目5番地3号

2017年03月現在

FUKUDA DENSHI

80th ANNIVERSARY
おかげさまで80周年

Touch the Innovation

医療の未来がここにある。

フクダ電子は医療機器専門メーカーとして
AEDや在宅医療・介護も展開しております。

フクダライフテック中部株式会社

〒452-0805 愛知県名古屋市西区市場木町390 ミュキビジネスパーク三号館
TEL. (052) 509-2110(代)

🔍 フクダ電子 🔍 検索

- 名古屋南営業所 〒458-0034 名古屋市緑区若田3-106 TEL.(052)629-5361(代)
- 岡崎営業所 〒444-0871 岡崎市大西1-18-2 TEL.(0564)65-2851(代)
- 岐阜営業所 〒500-8258 岐阜市西川手7-28 TEL.(058)271-2251(代)
- 土岐営業所 〒509-5124 土岐市土岐口中町1-56 TEL.(0572)53-1082(代)
- 三重営業所 〒514-0832 津市南中央2-18 TEL.(059)221-2301(代)
- 四日市営業所 〒512-0923 四日市市高角町2735-2 TEL.(059)325-3120(代)

エンドオブライフケア看護学

— 基礎と実践 —

人間環境大学教授
大阪大学名誉教授

小笠原 知枝 編著

多死社会を迎え重要となるエンドオブライフケアの基礎と実践，その根拠となる理論などを解説。



2018年12月出版

●B5判，400頁
●定価（本体3,600円＋税）
ISBN 978-4-86174-074-9

★エンドオブライフケアの現状と課題をあげ，必要な基礎知識，実践の根拠となる理論や尺度，さまざまな事例を掲載しています。

●「エンドオブライフケア看護学」を構築する必要性を提言し，エンドオブライフケアを多面的に捉え，総合的に学べるように構成しています。

●第3部では，患者・家族，一般市民，看護職者への教育について述べ，看護基礎教育，大学院教育については具体的な教育内容をあげています。さらにエンドオブライフケア看護学研究のためのシステムティックレビュー，エビデンスの紹介をしています。

主要目次

第1部	エンドオブライフケア看護学の基礎知識
第1章	終末期医療およびケアの現状と課題
第2章	エンドオブライフとエンドオブライフケアの意味
第3章	エンドオブライフケアにおける生命倫理
第4章	患者の権利と意思決定支援
第5章	エンドオブライフの病態的特徴
第6章	エンドオブライフ期にある患者と家族の心理
第7章	エンドオブライフの生活環境
第8章	エンドオブライフケアに活かす諸理論
第2部	エンドオブライフケアにおける看護の実践
第9章	エンドオブライフケアの実際
第10章	臨死期の身体的ケア
第11章	エンドオブライフケアと看護過程
第12章	エンドオブライフケアの事例
第13章	エンドオブライフケアのアウトカム評価
第14章	エンドオブライフケアのアセスメントと評価に使う測定尺度
第3部	エンドオブライフケア看護学の教育と研究
第15章	エンドオブライフケア看護学の教育
第16章	エンドオブライフケアにかかわる看護専門職者の教育カリキュラム
第17章	看護基礎教育と大学院教育におけるエンドオブライフケア看護学の教育カリキュラム
第18章	エンドオブライフケアのシステムティックレビューと概念分析
第19章	エンドオブライフケアのエビデンスの紹介
付録	予後を予測する尺度／用語解説